

陸達第十二號

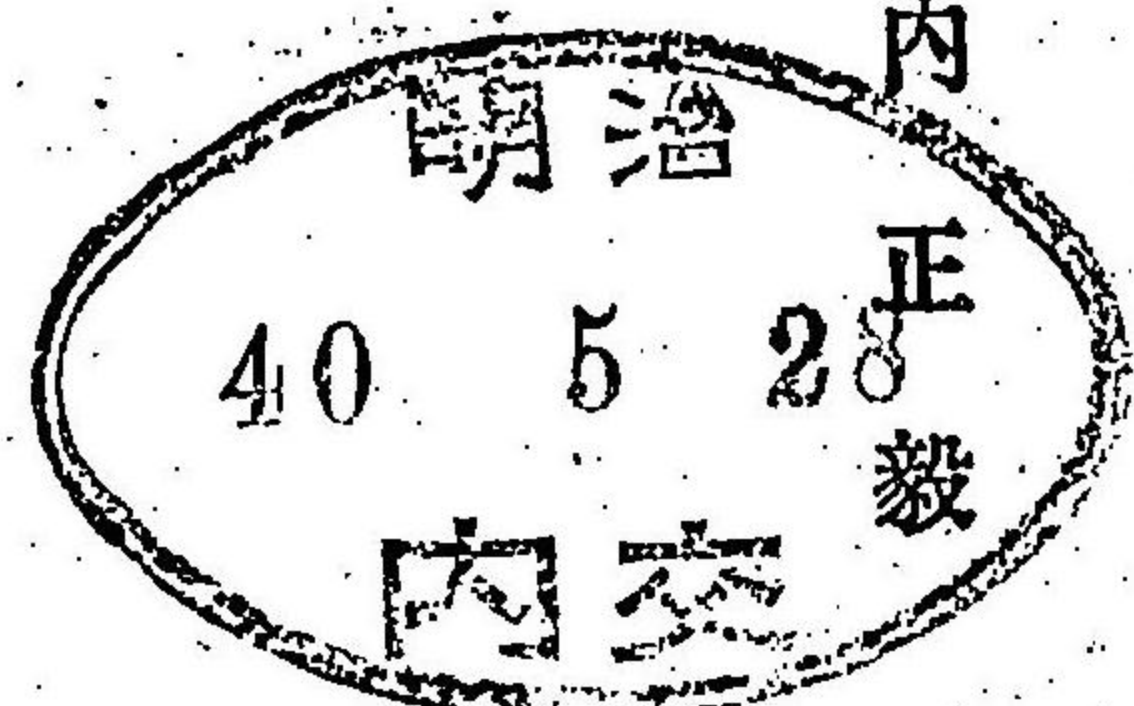
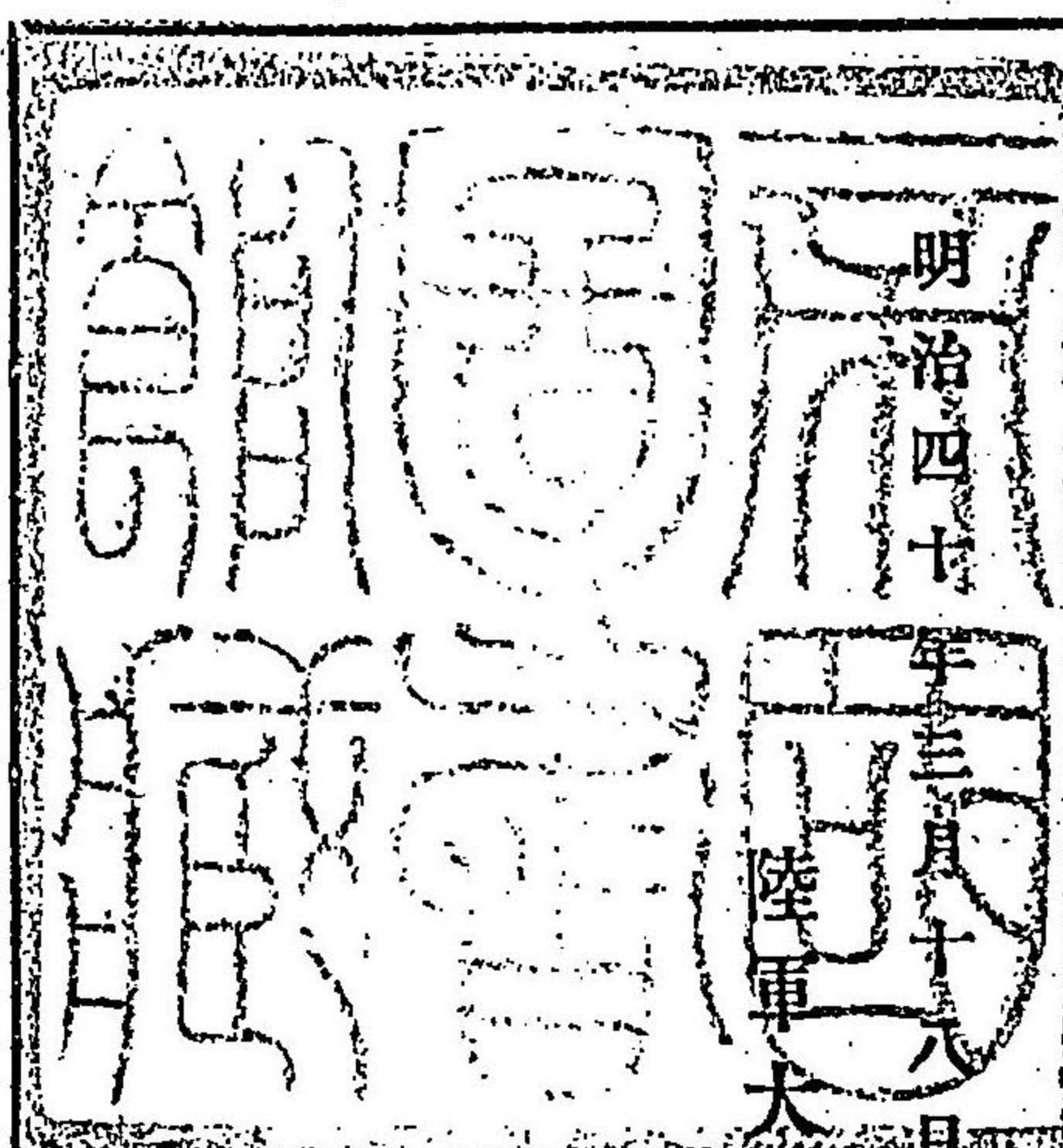
劍術教範別冊ノ通改正セラル

明治四十七年三月十八日

陸軍大臣

寺内

正毅



特刀
677

劍術教範目次

總則

一般ノ通則

基本演習ノ通則

試合演習ノ通則

軍刀術

基本動作

斬撃部及刺突部

提刀

目次

頁數

一一

四六

一一

一一

一一

一一

目次

構備
 提刀ヨリ構備
 構備ヨリ提刀
 前進及退却
 刀ノ交叉
 斬撃及刺突
 面ノ斬撃
 刺突
 右(左)胴ノ斬撃
 防拂及返撃
 面ノ防拂及返撃
 刺突ノ防拂及返撃

一一一
 一一二
 一一三
 一一三
 一一三
 一一四
 一一四
 一一四
 一一五
 一一五
 一一五
 一一六

二

試合

右(左)胴ノ防拂及返撃

銃劍術
 基本動作

刺突部
 立銃
 構備
 立銃ヨリ構備
 構備ヨリ立銃
 前進及退却
 劍ノ交叉
 刺突
 直突

一一七
 一一九
 一一九
 一一九
 一一九
 一一〇
 一一一
 一一一
 一一一
 一一一

目次

三

脱突	一一一
下突	一一二
防拂及返突	一一三
右ノ防拂及返突	一一三
左ノ防拂及返突	一一三
下ノ防拂及返突	一一三
合	一一四
附錄	一一五
乘馬軍刀術	一一一
通則	一一一
基本動作	一一一
馬上格闘ノ要訣	一一一
劍術教範目次終	一一一

劍術教範

總則

一般ノ通則

第一 劍術ノ目的ハ自兵ノ使用ニ習熟シ且體力殊ニ氣力ヲ養成シ攻撃精神ヲ發揚スルニ在リ

第二 劍術ヲ分チ軍刀術及銃劍術トス

第三 劍術ノ演習ハ左ノ區分ニ從ヒテ之ヲ行フ但シ其ノ他規定アルモノハ之ニ據ルヘキモノトス

其一 軍刀術 各兵科士官准士官及帶刀本分ノ下士兵卒

其二 銃劍術 歩兵、要塞砲兵、工兵科士官准士官下士及兵卒

總則

第四 劍術ノ進步ハ一ニ教官ノ技能ニ繫ルヲ以テ各級隊長ハ銳意教官ヲ訓練シテ之ニ精熟セシムルコトヲ努ムヘシ

第五 劍術ハ各個ニ教育スヘキモノトス之カ爲習技者ノ性質ト體格トヲ審ニシ漸次姿勢ノ正確動作ノ確實ト快速及氣勢ノ充實ヲ得セシムル如ク綿密ニ意ヲ用テ教授スルヲ要ス

最初ノ教授不完全ナルトキハ不貞ノ姿勢技癖ヲ生シ遂ニ固着シテ除去シ難キモノトス

第六 習技者ヲシテ自ラ進テ劍術ヲ行フノ念ヲ喚起セシムルハ劍術ヲ進歩セシムルニ有効ナルモノトス之カ爲教官ハ劍術ノ目的ト効果トヲ知ラシメ懇切ニ教授スルヲ要ス

第七 劍術ノ演習ハ常ニ實戰ニ鑑ミ精神ヲ爽快ニシ勇壯果敢敵ヲ壓伏スルノ氣力ヲ以テ之ヲ行フヘシ然レトモ嚴ニ規律ヲ守リ禮讓ヲ重スルヲ

要ス

第八 劍術ノ演習ニハ竹刀或ハ木銃ヲ用サ且防具ヲ着用スヘキモノトス(附圖第十九版參照)

第九 前項ノ外又時々軍刀若クハ軍用銃ヲ用サ且武裝ヲ爲サシメ敵手ヲ假想シ實敵ニ對スル如ク擊突或ハ防拂返擊(突)等ヲ行ハシメ以テ軍刀軍用銃使用ノ眞味ヲ了得セシムヘシ

第十 基本動作ニ習熟スルニ至リ假標ヲ設置シ遠距離ヨリ各種ノ歩度ニテ前進シ擊突ノ動作ヲ行フハ頗ル價値アリトス故ニ時機ヲ得ル毎ニ之ヲ行ハシムヘシ又單ニ敵手ヲ假想シ軍刀軍用銃ヲ用サテ以上ノ演習ヲ行ハシムヘシ

第十一 夜間或ハ不齊地ニ於テ又勞動或ハ激烈ナル運動ノ後若クハ異種白兵ニ對シ劍術ノ演習ヲ行フハ自信力ヲ増進セシムルノ効益アルモノ

基本演習ノ通則

四

トス然レトモ夜間ニ於ケル試合ハ殊ニ危険ノ虞アルヲ以テ特ニ注意シテ施行スルヲ要ス

第十二 教官ハ演習ヲ始ムルニ先チ演習用具ノ損否ヲ檢シ且其ノ着裝ニ注意スヘシ

第十三 基本及試合演習ノ前後ニ於テハ互ニ嚴肅ニ敬禮ヲ行フヘキモノトス

劍術ニ於ケル敬禮ハ相對シテ姿勢ヲ正シ互ニ其ノ眼ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケルモノトス

基本演習ノ通則

第十四 基本動作ハ劍術ノ基礎ニシテ最精確ニ教授スルヲ要ス

第十五 基本演習ハ最初其ノ動作ヲ緩徐ニシ以テ能ク其ノ要領ヲ了得セシメ習熟スルニ隨ヒ漸次確實快速ニ施行スヘシ

第十六 基本演習ハ同一ノ斬撃、刺突、防拂、返撃(突)等ヲ數回連續シテ之ヲ行ハシムヘシ此ノ時ニ方リ教官ハ習技者ノ氣勢ヲ誘致シ且次ノ動作ニ自由ヲ得セシムル爲習技者擊突或ハ返撃(突)ヲ行フ毎ニ其ノ機ニ應シテ適當ニ退却スルヲ要ス

第十七 基本動作ヲ全部習得セシメタル後ト雖尙絶エス之ヲ復習シ其ノ習熟ヲ圖ルト共ニ姿勢技辭等ヲ矯正スルコト必要ナリ故ニ試合ノ前後ニ於テ若干ノ基本動作ヲ施行スヘシ

第十八 演習ヲ始ムルトキ構備ノ姿勢ヲ取ルニハ通常四五歩ノ距離ニ於テス此ノ規則ハ試合演習ニモ亦適用ス

第十九 基本演習ハ一動作毎ニ竹刀或ハ木銃ヲ交又シテ行フモノトス

第二十 教範ニ掲ケル號令ハ必ス遵用スヘキモノニシテ常ニ明瞭活潑ニ發唱スルヲ要ス然レトモ同一ノ基本動作ヲ數回連續シテ行ハシムルト

基本演習ノ通則

五

キハ次回ヨリ規定ノ號令ニ代フルニ「同シ」ヲ以テスルコトヲ得

試合演習ノ通則

第二十一 試合ハ劍術ノ目的ヲ達成スル主要ノ演習ニシテ殊ニ其ノ習熟ヲ圖ルヲ要ス

第二十二 試合演習ヲ教習試合及互格試合ノ二種ニ分チ教習試合ハ基本動作ヲ習得セシメタル後施行シ互格試合ハ教習試合ニ依リ略々使術ノ應用ニ慣レ判断ノ能力ヲ得セシメタル後施行スルモノトス

第二十三 教習試合ハ試合ノ要領ヲ教授スル演習ニシテ習技者ヲシテ敵手ノ意志動作ヲ判断シ基本動作ヲ適實ニ應用セシメ殊ニ常ニ攻勢ヲ取り機先ヲ制シ果斷決行ノ氣力ヲ得セシムル如ク指導スルモノトス

第二十四 教習試合ニ於テ教官ハ習技者ニ適當ノ虛隙又ハ機會ヲ與ヘテ之ヲ擊突セシメ或ハ習技者ノ虛隙ヲ擊突シ之ヲ防拂シテ返擊(突)セ

シメ以テ適實ニ使術ノ應用ヲ教授スルト共ニ其ノ攻撃精神ヲ誘發スル如クスヘシ

第二十五 教習試合ハ互格試合ヲ始メタル後ト雖尙屢々之ヲ演習シ試合ノ進歩ヲ圖ルヘシ

第二十六 互格試合ハ習技者相互ノ試合演習ニシテ互ニ攻防ノ術ヲ盡シ勝敗ヲ決セシメ以テ使術ノ應用ニ精熟シ自信力ヲ増シ氣勢ヲ發揚セシムルモノトス

第二十七 互格試合ニ當リ教官ハ機ヲ失セズ其ノ各時機ニ於ケル相互ノ意志動作ノ經過ヲ説明シ乘スヘキ機會過失技癖等ヲ懲篤ニ教示スヘシ

第二十八 敵ニ先スルハ勝ヲ制スルノ要訣ナリ故ニ敵手ノ意志動作ヲ察知シ其ノ乘スヘキノ機ヲ失ハサルコト肝要ナリ

- 第二十九 擊突ハ勇壯果敢已テ捨テテ施行シ若擊突功ヲ奏セサルモ尙敵手ヲ壓伏スルノ氣力ヲ以テ再ヒ擊突スルヲ要ス縱ヒ擊突功ヲ奏シタリト信スルモ決シテ氣勢ヲ弛ムヘカラス是レ嗣後ノ變ニ應センカ爲ナリ
- 第二十 總テ防拂シタルトキハ直ニ返擊(突)ヲ行フヘシ若防拂スルノ餘裕ナキトキハ寧口已テ捨テテ擊突ヲ行フヘシ蓋シ其ノ氣勢ノ如何ニ依リテ敵手ヲ躡階セシメ反テ我カ擊突ノ功ヲ奏スレハナリ
- 第二十一 互格試合ハ教官之カ勝敗ヲ審判スルモノトス而シテ審判ノ適否ハ劍術ノ効果ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ注意ヲ周密ニシ適實ニ劍術ノ目的ヲ達スル如クスルヲ要ス
- 第二十二 擊突ヲ行フ際氣勢ニ伴フ自然ノ發聲ハ頗ル價值アリトス然レトモ之カ爲故ラニ發聲スルヲ禁ス
- 第二十三 竹刀(木銃)ヲ放墜セシモノハ敗者トシ之ニ對スル敵手ハ

擊突ヲ行ハサルモノトス但シ其ノ瞬時ニ於ケル一回ノ擊突ハ此ノ限リニ
アラス

- 第二十四 試合ノ勝敗決スル毎ニ五ニ距離ヲ復シ提刀或ハ立銃ノ姿勢ヲ取り更ニ試合ヲ始ムヘシ
- 第二十五 規定セル擊突部ノ外決シテ擊突スルヲ許サス若過テ規定外ヲ擊突セシトキハ「過リ」ト謝スヘシ
- 第二十六 教官試合ヲ始メシムルニハ「始メ」之ヲ止メシムルニハ「止メ」一時中止セシムルニハ「待テ」ト令ス又習技者教官ニ對シ或ハ相互ノ試合中事故ニ依リ中止ヲ要スルトキハ「暫ク」ト請フヘシ

軍刀術

基本動作

斬撃部及刺突部

第二十七

斬撃部ヲ定ムルコト左ノ如シ(第一圖)

面

右(左)胴

前臂(基本動作ニ於テハ通常斬撃セサルモノトス)

第二十八

刺突部ヲ定ムルコト左ノ如シ(第一圖)

喉

提刀

第二十九

不動ノ姿勢ヲ取り左手ニテ竹刀ノ鏝元ヲ握リ刀刃ヲ下方

ニシ刀尖ヲ斜ニ後方ニ下ク(第二圖)

基本動作

基本動作

十二

第四十 提刀ヨリ構備(第三圖)

構備

號令

構へ刀

頭ヲ正面ニシタルママ右足尖ヲ正面ニ向クル如ク左ニ向キ右手ニテ刀柄ヲ握ラサル如ク確實ニ握ル
右足ヲ前方約半歩ノ所ニ出シ體重ヲ齊シク兩足ニ托シ僅ニ兩膝ヲ屈シ同時ニ左手ヲ離シテ自然ニ垂レ右手ニテ刀ヲ前方ニ出シ肘ヲ僅ニ屈シ拳ノ高サヲ約腕骨ト齊クシ刀双ヲ下方ニシ刀尖ヲ凡ソ敵手ノ眼ニ向ケ上體ヲ眞直ニシテ腰ノ上ニ落チ付ケ眼ヲ敵眼ニ注ク

第四十一

構備ヨリ提刀

號令

提ゲ刀

正面ニ向キツツ左踵ヲ右踵ノ側ニ引着ケテ提刀ノ姿勢ニ復ス

前進及退却

第四十二

前進及退却ハ敵トノ距離ヲ伸縮スル場合ニ用ユル動作ニシテ構備ノ姿勢ノママ兩脚共ニ硬固ナラサル如ク快速ニ之ヲ行ヒ足ハ地ヲ近ク過キテ輕ク踏ミ着クヘシ

前進ハ右足ヲ前方ニ進メ直ニ左足ヲ定距離ノ所ニ送ル退却ハ之ニ反ス場合ニ依リ前進ハ左足ヲ右足ノ前方ニ進メ直ニ右足ヲ左足ノ前方定距離ノ所ニ進メ退却ハ之ニ反シテ行フコトヲ得

刀ノ交叉

第四十三 刀ノ交叉ハ刀ノ尖端ヨリ約一握ノ所ニ於テシ刀ノ左方ヲ以テスルヲ通常トス(第四圖)

斬撃及刺突

基本動作

十三

基本動作

十四

第四十四 斬撃ハ構備ノ姿勢ヨリ刀ヲ振り上ケ一步快速ニ進出シ同時ニ十分臂ヲ伸シテ敏活ニ撃チ下ス
斬撃ヲ行ヒタルトキハ直ニ構備ノ姿勢ニ復スルモノトス（刺突ニ於テモ亦然リ）

第四十五 刺突ハ構備ノ姿勢ヨリ一步快速ニ進出シ同時ニ十分臂ヲ伸シテ刀ヲ敏活ニ突き出ス

第四十六 面ノ斬撃（第五圖）

號令

面ヲ撃テ

刀ヲ正面ヨリ頭上ニ振り上ケ敵手ノ面ヲ斬撃ス

第四十七 刺突（第六圖）

號令

突ッ

敵刀ノ左（右）方ヨリ敵手ノ喉ヲ刺突ス

第四十八 右（左）胸ノ斬撃（第七、第八圖）

號令

右（左）胸ヲ撃テ

刀ヲ右（左）前方ヨリ頭上ニ振り上ケ左（右）ニ回ハシテ敵手ノ右（左）胸ヲ斬撃ス

防拂及返撃

第四十九 防拂ハ構備ノ姿勢ヨリ刀ヲ以テ敵刀ヲ敏活ニ撃拂ス

第五十 返撃ハ敵手ノ撃突ヲ防拂シ直ニ其ノ虚隙ニ乘シ防拂セシ刀勢ヲ利用シテ斬撃ス

第五十一 面ノ防拂及返撃（第九圖）

基本動作

十五

號令
面ヲ防ゲ
面ヲ撃テ

拳ヲ右前方ニ上ケ概ネ頭頂ノ高サニシ刀ヲ凡ソ水平ニシテ防拂ス
返撃ハ面ノ斬撃ノ要領ニ準ス

第五十二 刺突ノ防拂及返撃(第十圖)

號令
突ヲ防ゲ
面ヲ撃テ

敵刀ヲ左(右)前方ニ防拂ス
返撃ハ面ノ斬撃ノ要領ニ準ス

第五十三 右(左)胴ノ防拂及返撃(第十一、第十二圖)

號令
右(左)胴ヲ防ゲ
面ヲ撃テ

拳ヲ右(左)前下方ニ進メ刀尖ヲ斜上方ニシテ防拂ス
返撃ハ面ノ斬撃ノ要領ニ準ス

試合

第五十四 試合ハ試合演習ノ通則ニ準據シテ行フモノトス

第五十五 刀ハ右手ヲ以テ使用スルヲ常法トス然レトモ習熟スルニ
至レハ場合ニ依リ兩手或ハ左手ヲ以テ使用スルコトヲ得

銃劍術

基本動作

刺突部

第五十六

刺突部ヲ定ムルコト左ノ如シ(第十三圖)

胸

喉(基本動作ニ於テハ通常刺突セサルモノトス)

立銃

第五十七

立銃ハ操典ノ規定ニ準ス(第十四圖)

構備

第五十八

立銃ヨリ構備(第十五圖)

號令

構へ銃

基本動作

基本動作

二十

頭ヲ正面ニシタルママ左足尖ヲ正面ニ向クル如ク右ニ向キ右足ヲ約矩形ニ開キ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケ左手ニテ櫛ネ下帶ノ下部ヲ握リ直ニ右手ヲ下ケテ銃把ヲ握ル

左足ヲ前方約半歩ノ所ニ出シ體重ヲ齊シク兩足ニ托シ僅ニ兩膝ヲ屈シ同時ニ兩手ヲ以テ銃ヲ前ニ倒シ銃身ヲ上ニシ僅ニ左方ニ傾ケ右手ヲ腕骨ノ附近ニ置キ左肘ヲ僅ニ屈シ劍尖ヲ凡ソ敵手ノ眼ニ向ケ上體ヲ眞直ニシテ腰ノ上ニ落付ク眼ヲ敵眼ニ注ク

第五十九

構備ヨリ立銃

號令

立テ銃

右手ヲ以テ照尺ノ上部ヲ握リ正面ニ向キツツ右踵ヲ左踵ニ引キ着ケテ立銃ノ姿勢ニ復ス

前進及退却

第六十

前進及退却ハ軍刀術ノ前進及退却ニ準ス

劍ノ交叉

第六十一 劍ノ交叉ハ劍ノ尖端ヨリ約一握ノ所ニ於テシ劍ノ右方ヲ以テスルヲ通常トス(第十六圖)

刺突

第六十二 刺突ハ構備ノ姿勢ヨリ一步快速ニ進出シ同時ニ兩手ヲ以テ銃ヲ敏活ニ突き出ス

刺突ヲ行ヒタルトキハ直ニ構備ノ姿勢ニ復スルモノトス

第六十三

直突(第十七圖)

號令

突ツケ

基本動作

二十一

敵手ノ左拳ノ右上方ヨリ刺突ス
若劍ノ左方ヲ以テ交叉スルトキハ左上方ヨリ刺突ス

第六十四 脱突(第十八圖)

號令
脱セ

兩手ニテ劍尖ヲ下ケ敵手ノ劍下ヲ近ク經過セシメツツ敵手ノ左拳ノ左上方ヨリ刺突ス

若劍ノ左方ヲ以テ交叉スルトキハ右上方ヨリ刺突ス

第六十五 下突(第十九圖)

號令
下ヲ突ケ

兩手ニテ劍尖ヲ下ケツツ敵手ノ左拳ノ下方ヨリ刺突ス

防拂及返突

第六十六 防拂ハ構備ノ姿勢ヨリ銃劍ヲ以テ敵ノ銃劍ヲ敏活ニ擊拂ス

第六十七 返突ハ敵手ノ刺突ヲ防拂シ直ニ其ノ虛隙ニ乘シテ刺突ス

第六十八 右ノ防拂及返突(第二十圖)

號令

右ヲ防ケ
突ケ

左拳ノ右上方ヨリ刺突ヲ受クルトキハ兩手ヲ以テ銃ヲ右前方ニ進メツツ斜下方ニ防拂ス

返突ハ直突ノ要領ニ準ス

第六十九 左ノ防拂及返突(第二十一圖)

基本動作

號令
ヒタリフセ
左ヲ防ケ
ツ
突ケ

左拳ノ左上方ヨリ刺突ヲ受クルトキハ兩手ヲ以テ銃ヲ左前方ニ進メツ
斜下方ニ防拂ス
返突ハ直突ノ要領ニ進ス

第七十 下ノ防拂及返突(第二十二圖)

號令
シタフセ
下ヲ防ケ
ツ
突ケ

左拳ノ下方ヨリ刺突ヲ受クルトキハ兩手ヲ以テ銃ヲ前方ニ進メツ
右拳ヲ約右乳ノ高サニ上ケ用心鐵ヲ殆ント右方ニ向ケテ右下方ニ防拂ス

返突ハ直突ノ要領ニ進ス

試合

第七十一 試合ハ試合演習ノ通則ニ準據シテ行フモノトス

劍術教範終

附 錄

乘馬軍刀術

通 則

- 第一 乘馬軍刀術ノ目的ハ乘馬ニ於テ敵ヲ斬撃及刺突スル法ヲ演習セシムルニ在リ
- 第二 乘馬軍刀術ハ先ツ停止及常歩ニ於テ演習セシメ然ル後速歩及駈歩ニ於テ演習セシム
- 第三 乘馬軍刀術ハ先ツ軍刀ノミヲ以テ演習セシメ然ル後銃ヲ負テ演習セシム
- 第四 二人以上ヲシテ同時ニ停止間乘馬軍刀術ヲ演習セシムルニハ三

附 錄

米突ノ間隔ヲ取りテ横列セシム

又馬場ノ内ニ於テ行進間乘馬軍刀術ヲ演習セシムルニハ通常ノ蹄跡ヨリ
二米突内方ニ於テ別ニ蹄跡ヲ設ケ

第五 兵卒已ニ斬撃及刺突ノ要領ヲ會得シタル後ハ乘馬者徒歩者及伏

臥者ヲ表スル適宜ノ假標ヲ設置シ之ニ對シテ斬撃及刺突ヲ演習セシム此
ノ演習ハ先ツ直線行進中之ヲ行ハシメ然ル後卷乘半卷中之ヲ行ハシム

第六 乘馬軍刀術ハ豫メ徒歩ニテ演習セシムルモノトス
但シ此ノ場合ニ於テハ兵卒ニ構刀ノ姿勢ヲ執ラシムルト同時ニ鞘ヲ鈎ヨ

リ脱シ右足ヲ左足ヨリ約一步右ニ開キ左手ハ韁ヲ持チタル姿勢ヲ爲サシ
ム

基本動作

第七 斬撃又ハ刺突ノ目標ハ常ニ敵ノ頭部又ハ胸部ニ取ルモノトス

第八 斬撃及刺突ヲ行フニ方リテハ敵ノ位置ニ應ジテ多少體ヲ其ノ方
向ニ傾ケ且鎧ニ依托スルヲ要ス但シ之方爲騎坐竝ニ手及脚ノ位置ヲ亂ス
ヘカラス

第九 徒歩セル敵ニ對シ斬撃及刺突ヲ演習セシメントスルトキハ號令
ノ始ニ於テ豫メ「徒歩者ニ向ヒ」ノ告示ヲナスモノトス

第十 伏臥セル敵ニ對シテハ刺突ノ外行ハス此ノ時左手ニ韁ト共ニ鬣
毛ヲ握リ目標ヲ常ニ我方右側ニ取ルモノトス

構刀

第十一 肩刀ヨリ構刀

肩刀ニ在ルトキ 號令

構ヘ刀

右手ノ全掌裡ニ軍刀ノ柄ヲ握リ右拳ヲ左拳ノ上稍、前方ニ出シ爪ヲ左ニ

向ク肘ヲ體ニ接シ刀尖ヲ左肩ノ前ニ向ハシメ之ト同シ高サニ爲シ刀刃ヲ
右下ニ向ク

第十二 構刀ヨリ肩刀

構刀ニ在ルトキ 號令

肩ヘ刀

第十一ト反對ノ動作ヲ爲シ肩刀ヲ爲ス

右前ノ斬撃及刺突

第十三

構刀ニ在ルトキ 號令

右前ヲ撃テ

眼ヲ目標ニ注キ右拳ヲ少シク右ニ開キ刀尖ヲ右前ニ向ケ一度刺突ヲ行ヒ
次ニ右拳ヲ十分頭ノ右上ニ振上ケ刀刃ヲ上ニシ刀尖ヲ左後ニシ右前ニ一
度斬撃ヲ行ヒ腕ヲ以テ輪ヲ盡キツツ再ヒ刀尖ヲ右前ニ向ケ更ニ一度刺突

ヲ行ヒ構刀ノ姿勢ニ復ス

左前ノ斬撃及刺突

第十四

構刀ニ在ルトキ 號令

左前ヲ撃テ

眼ヲ目標ニ注キ右拳ヲ體ニ近ケ刀尖ヲ左前ニ向ケ一度刺突ヲ行ヒ次ニ右
腕ヲ十分伸ハシ右拳ヲ右肩ノ上ニ振上ケ刀尖ヲ右後ニシ左前ニ一度斬撃
ヲ行ヒ腕ヲ以テ輪ヲ盡キツツ再ヒ刀尖ヲ左前ニ向ケ更ニ一度刺突ヲ行ヒ
構刀ノ姿勢ニ復ス

右前左前(左前右前)同時ノ斬撃及刺突

第十五

構刀ニ在ルトキ 號令

右前左前ヲ(左前右前ヲ)撃テ

右前(左前)ノ斬撃及刺突ヲ行ヒ構刀ノ姿勢ニ復スルコトナク續テ左前

(右前)ノ斬撃及刺突ヲ行フ

隨意ノ斬撃及刺突

第十六

構刀ニ在ルトキ 號令

隨意ニ撃テ

止メ

右前及左前斬撃刺突ノ要領ニ從ヒ隨意ニ諸種ノ運動ヲ混交シテ行フ
「止メ」ノ號令ニテ構刀ノ姿勢ニ復ス

馬上格闘ノ要訣

第十七

馬上ノ格闘ニ在リテハ機先ヲ制スル者常ニ勝ヲ制ズ故ニ敵ニ對シテハ攻撃ヲ取ルチ原則トス

第十八

敵ノ上體ヲ斬撃シ能ハサルトキハ其ノ腰、左拳若クハ馬首ヲ斬撃スヘシ

第十九

馬上ノ格闘ニ在リテハ左後ヲ弱點トス故ニ敵ヲ常ニ我方右ニ置キ且成ルヘク敵ノ左後ニ迫ルチ有利トス

第二十

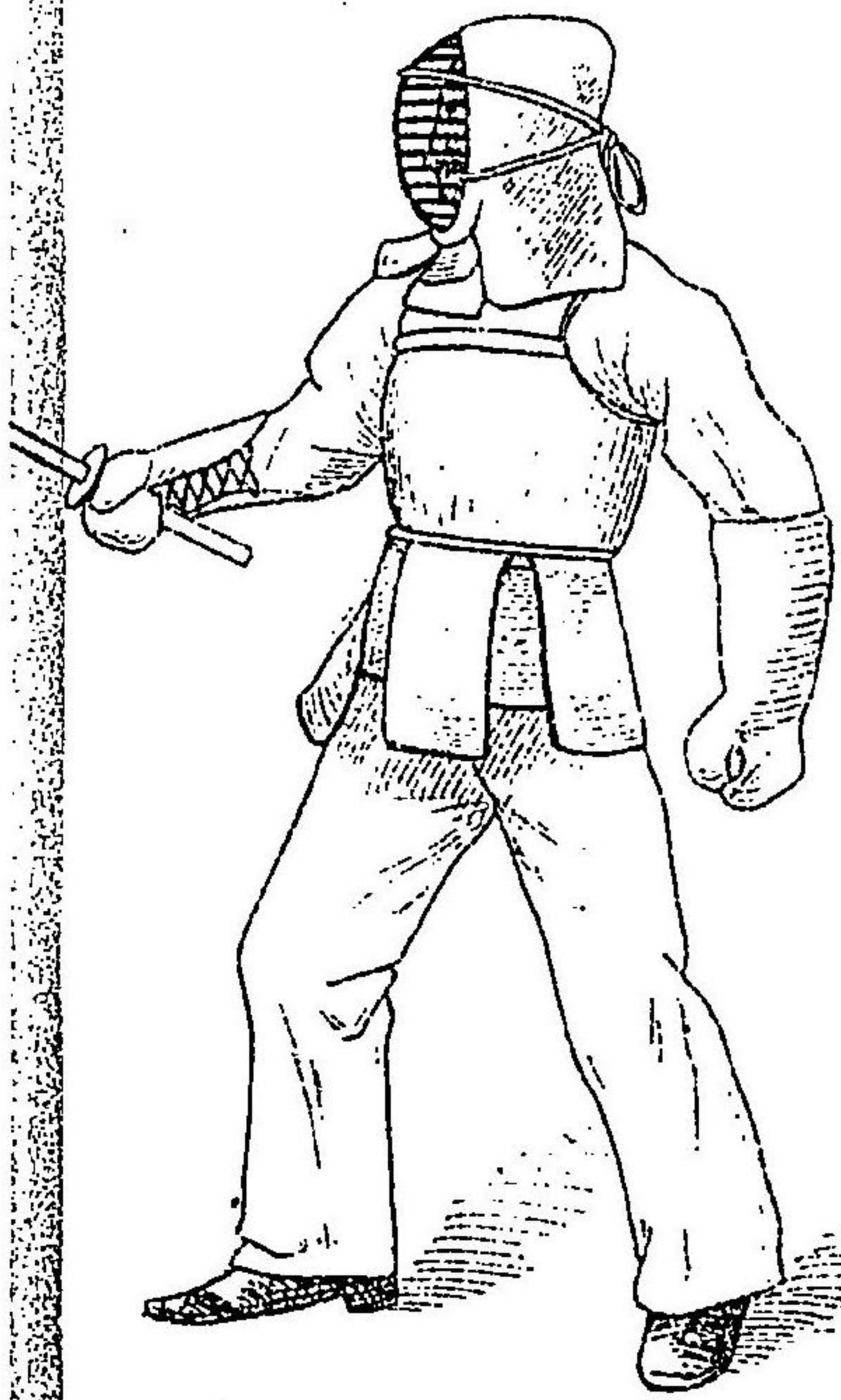
格闘シツツ轉回スルトキ又ハ敵ニ切迫シツツ轉回スルトキハ常ニ右ニ轉回スルチ利アリトス但シ敵ト離隔シ危險ナキニ至ラハ左ニ轉回スルモ亦可ナリ

第二十一

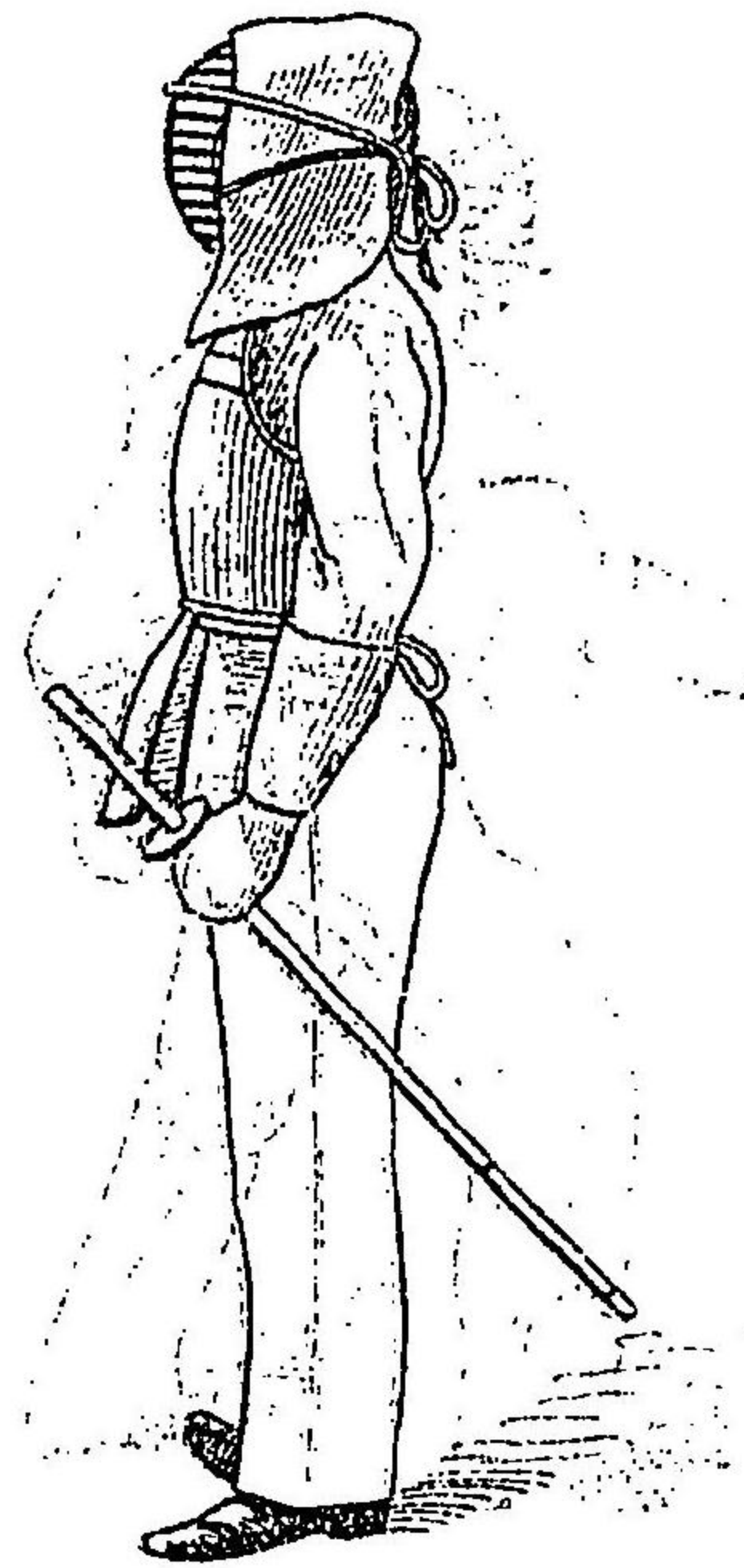
斬撃ヲ行フニ方リ馬匹及銃ヲ損傷サルコトニ注意スヘシ

劍術教範附錄終

圖三第
備 構



圖二第
刀 提



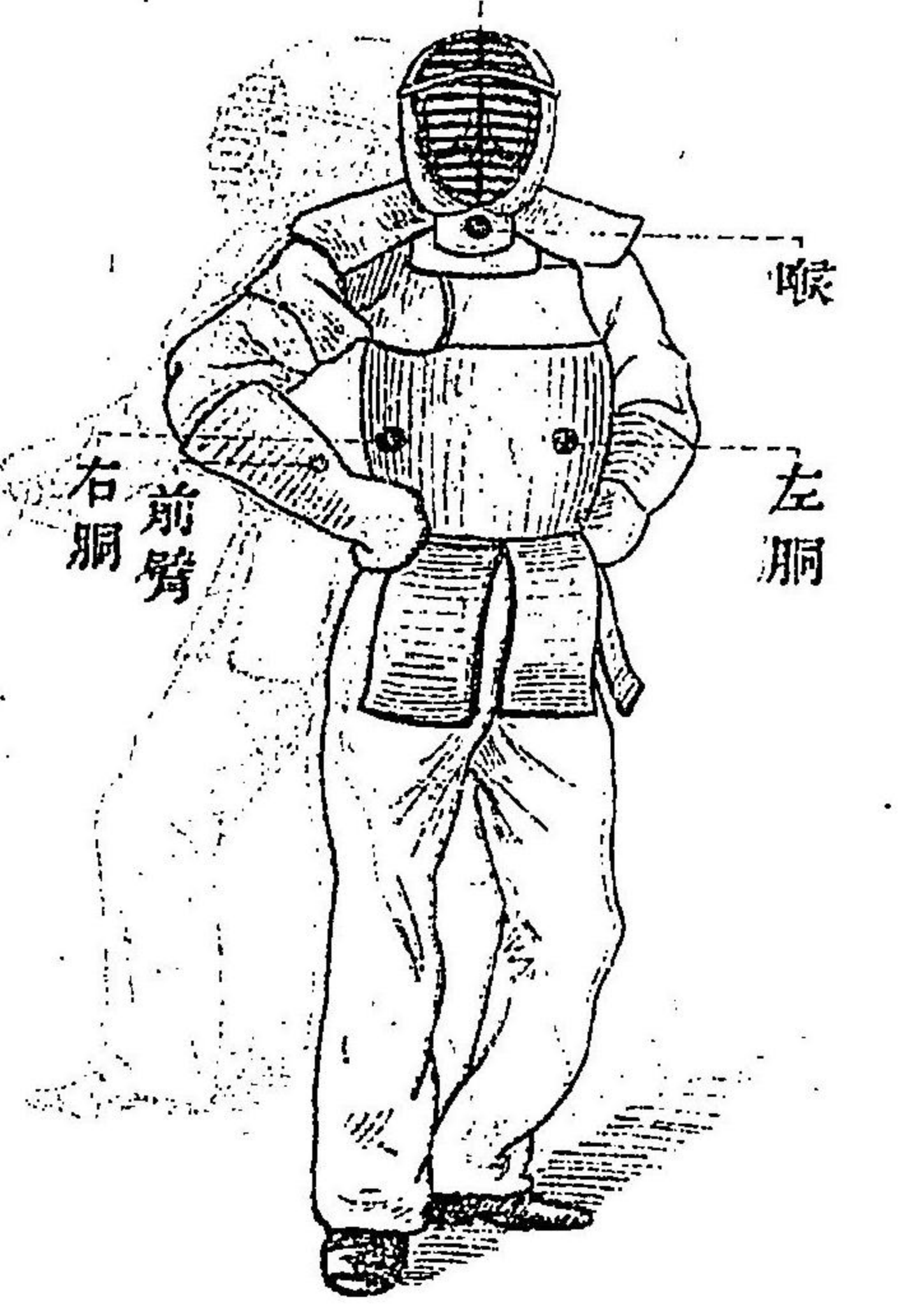
圖四第
備 考

本圖ハ各擊突部ノ主點ヲ示ス
モノニシテ多少偏移スルモ妨
ケナシ但シ面ハ前頭部ノ外ニ
出ツルヲ許サス

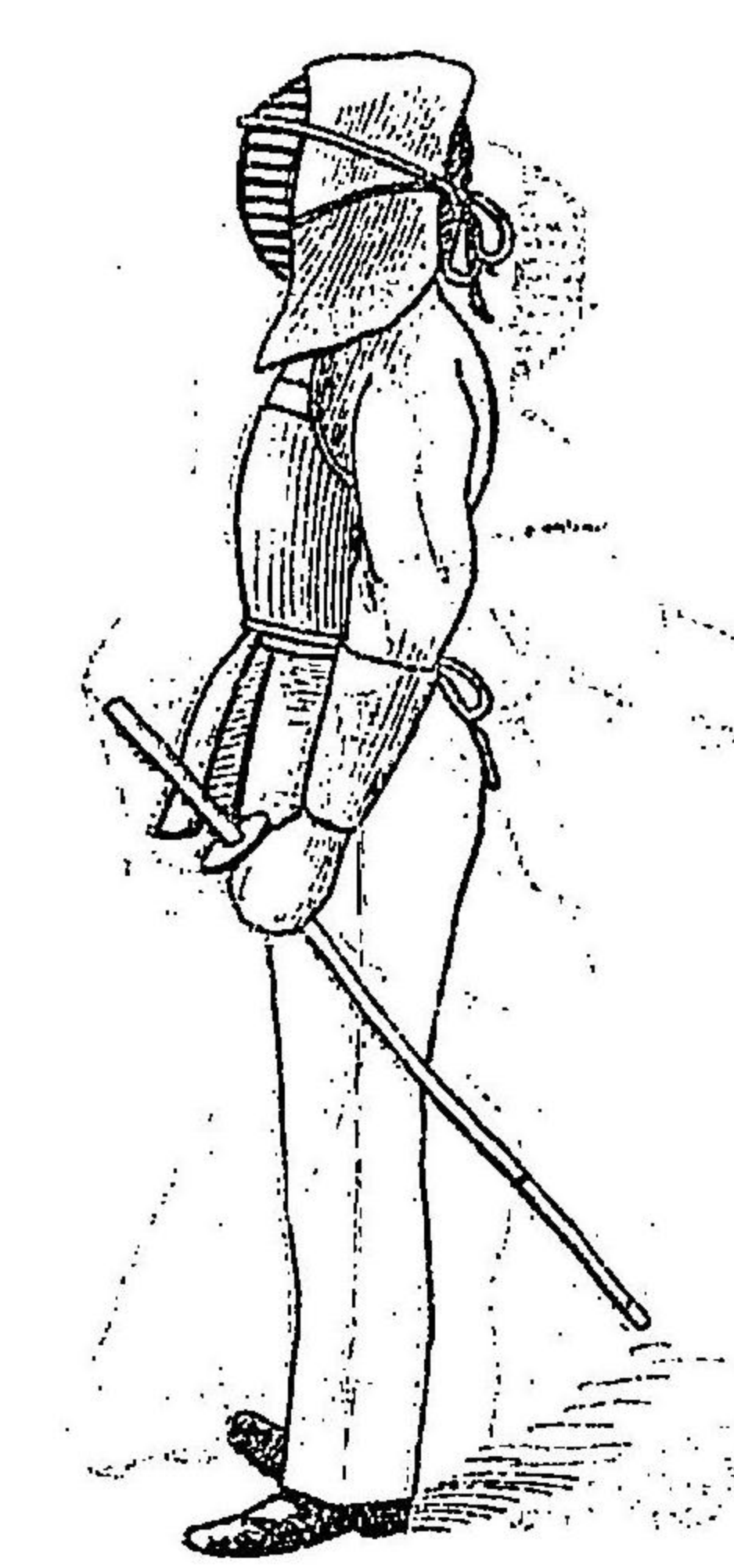
圖一第
部突刺及部擊斬
面



第一圖
斬擊部及刺突部
面



第二圖
提刀



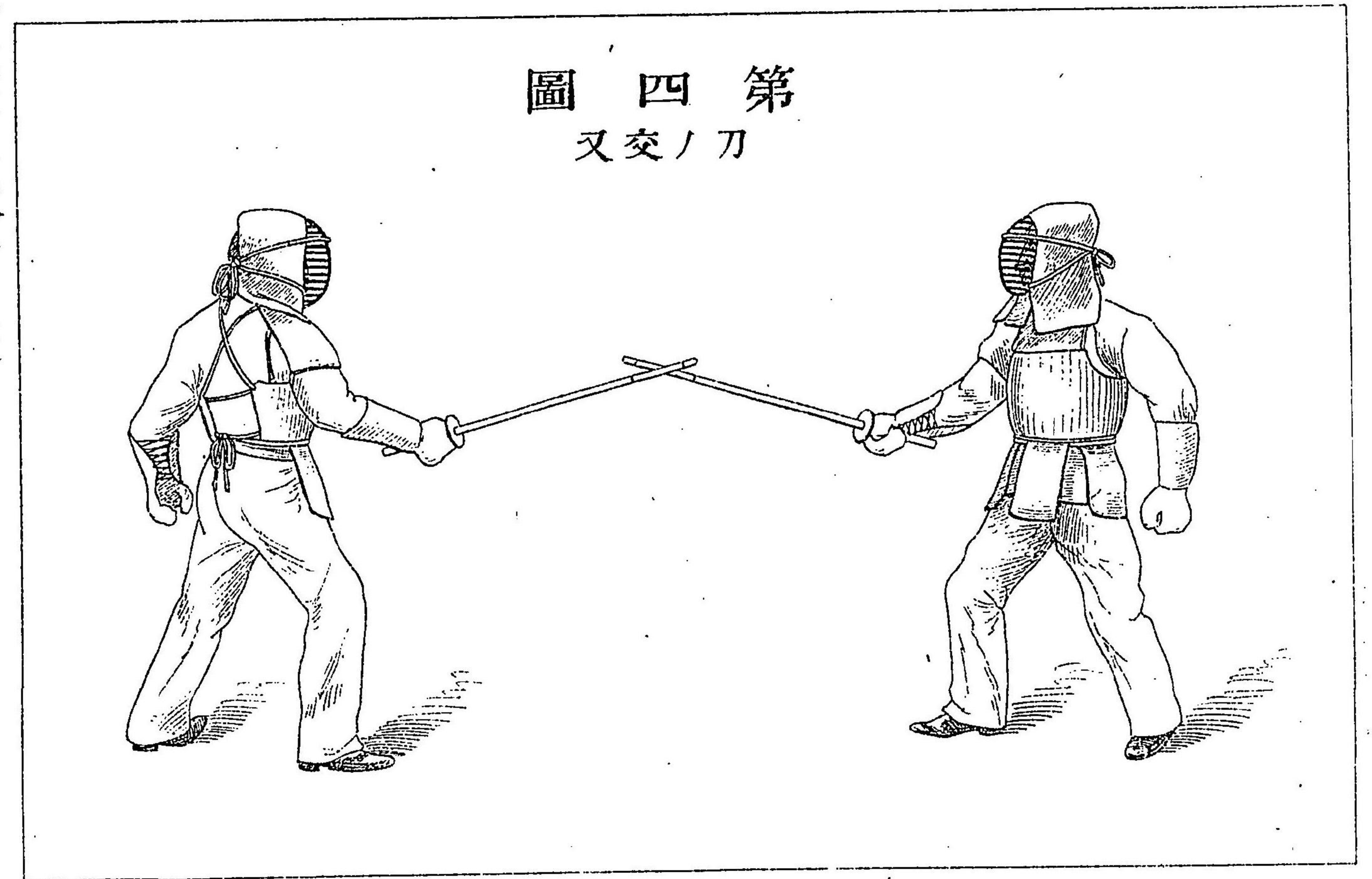
備考
本圖ハ各擊突部ノ主點ヲ示ス
モノニシテ多少偏移スルモ妨
ケナシ但シ面ハ前頭部ノ外ニ
出ツルヲ許サス

第三圖
構備

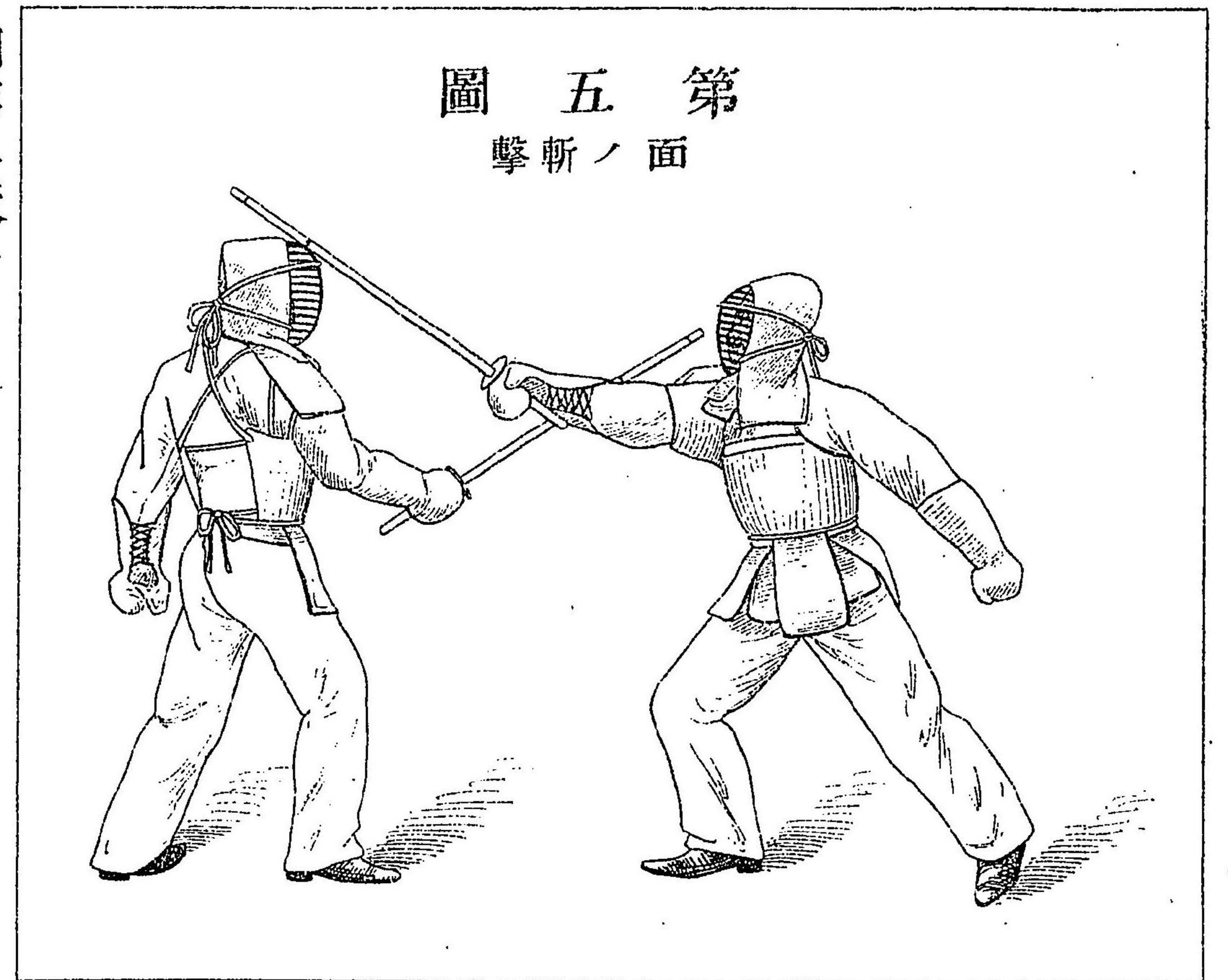


附圖第一版 (第一、第二、第三圖)

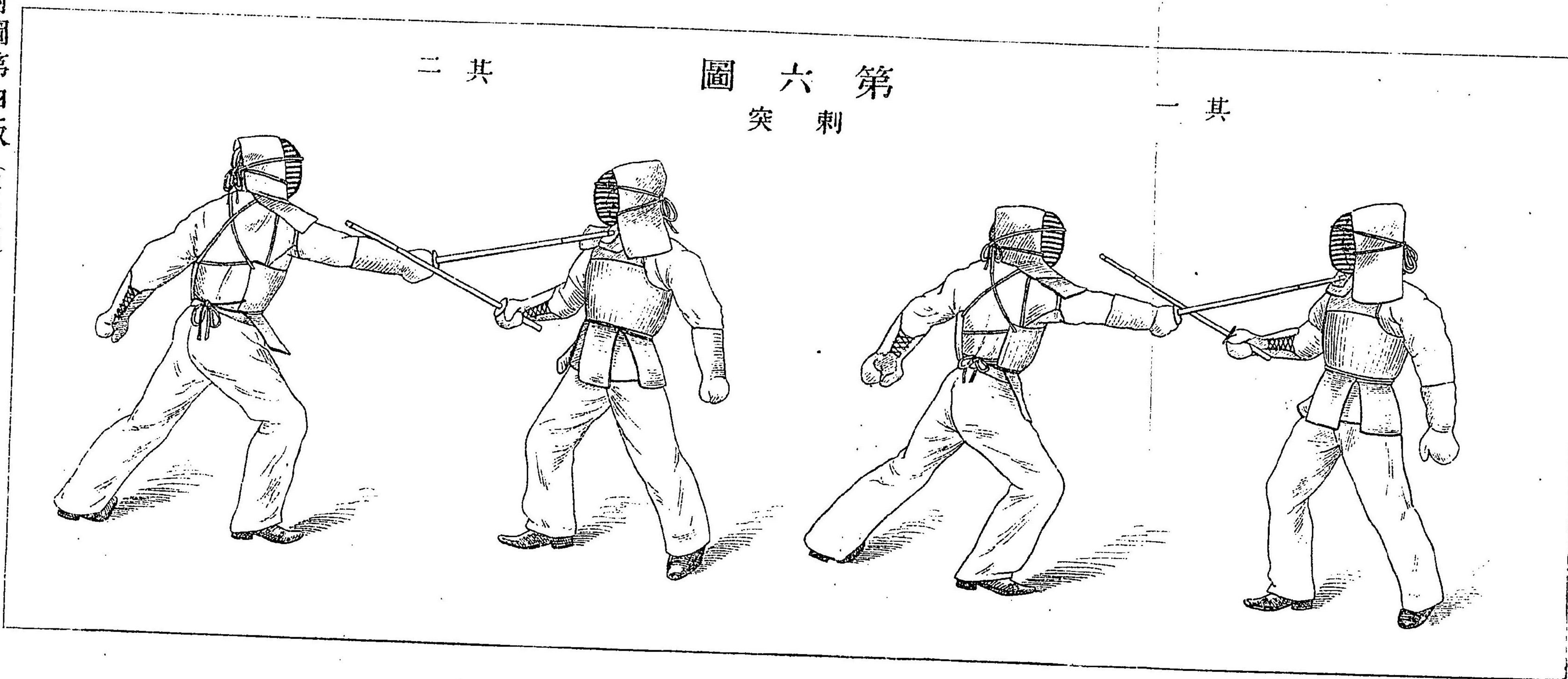
附圖第二版 (第四圖)



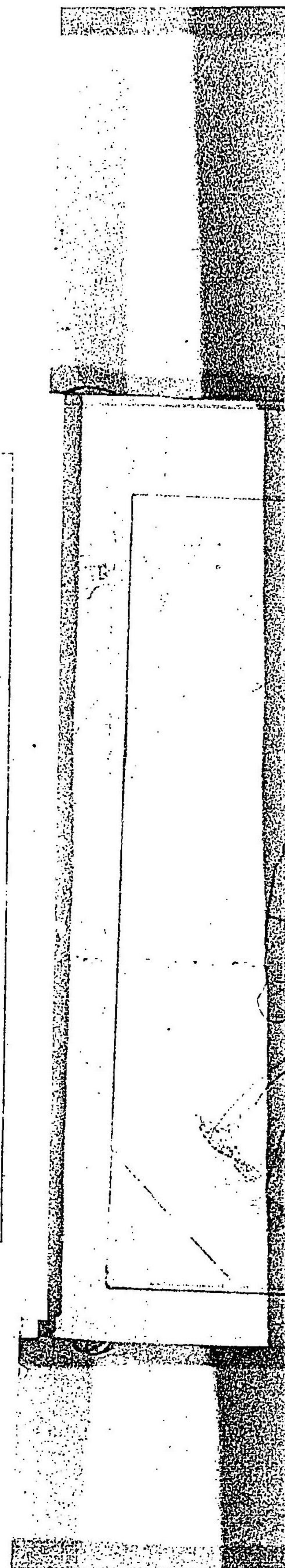
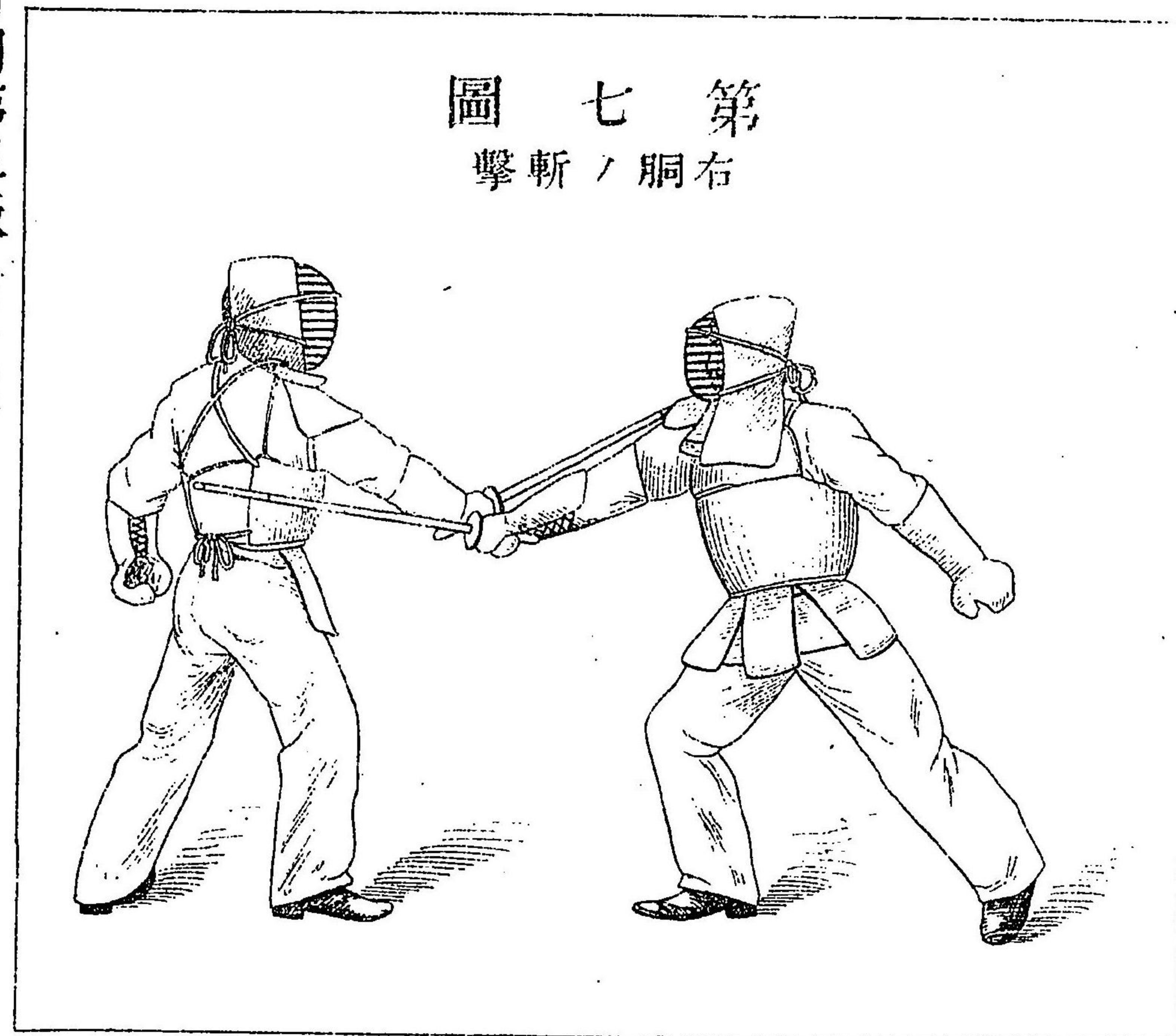
附圖第三版 (第三圖)



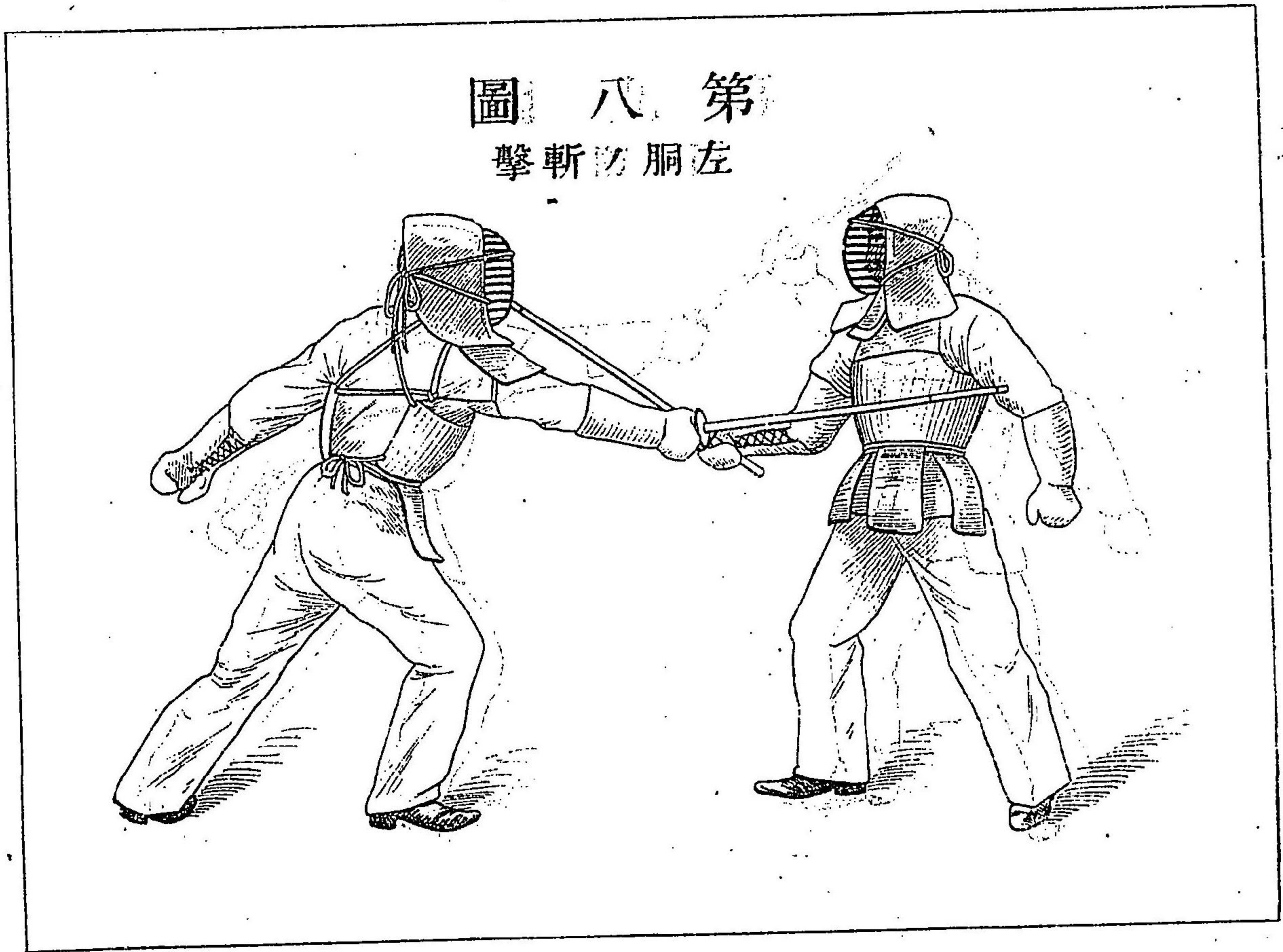
附圖第四版 (第六圖)



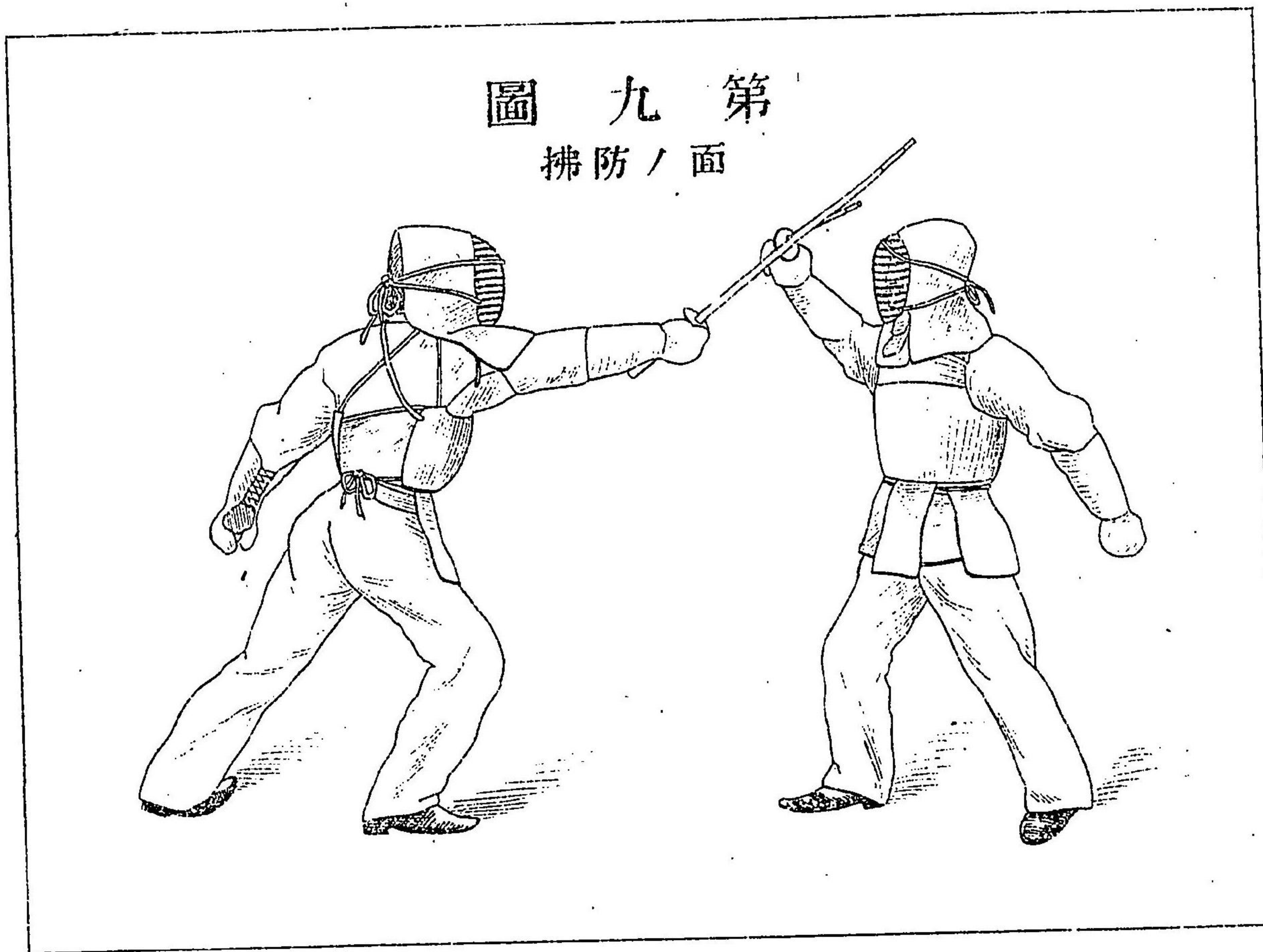
附圖第五版 (第七圖)

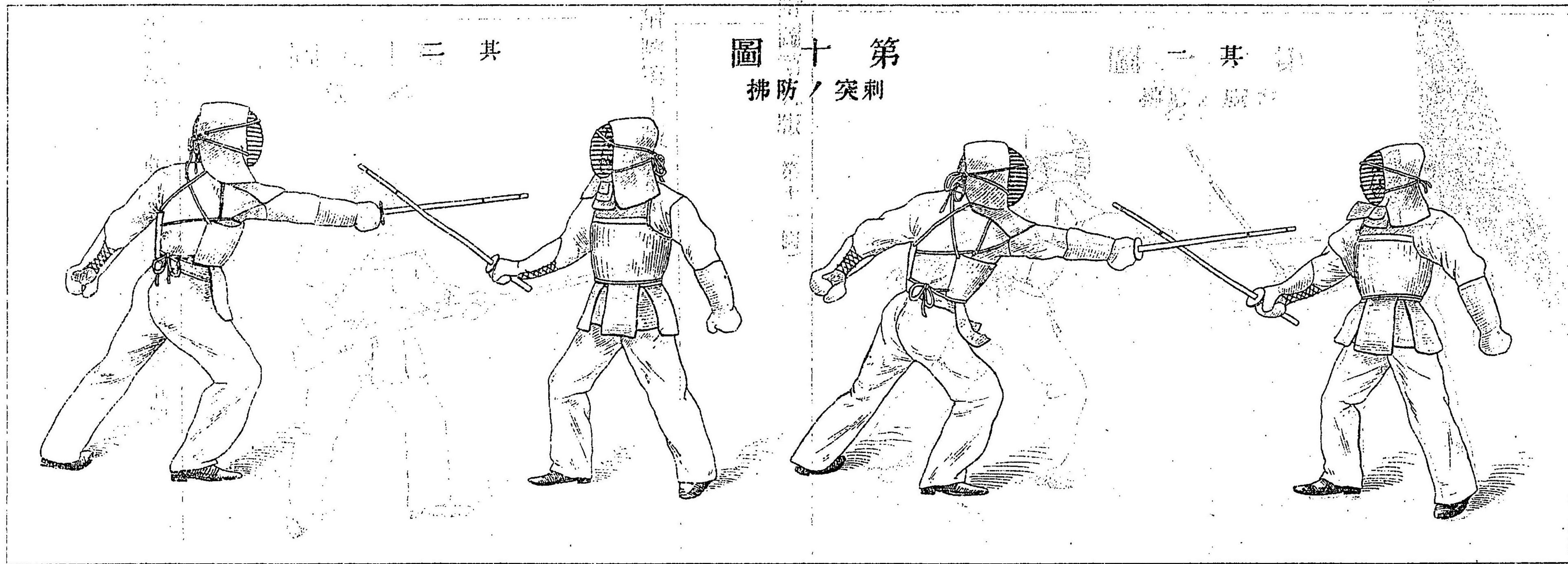


附圖第六版
(第八圖)



附圖第七版（第九圖）



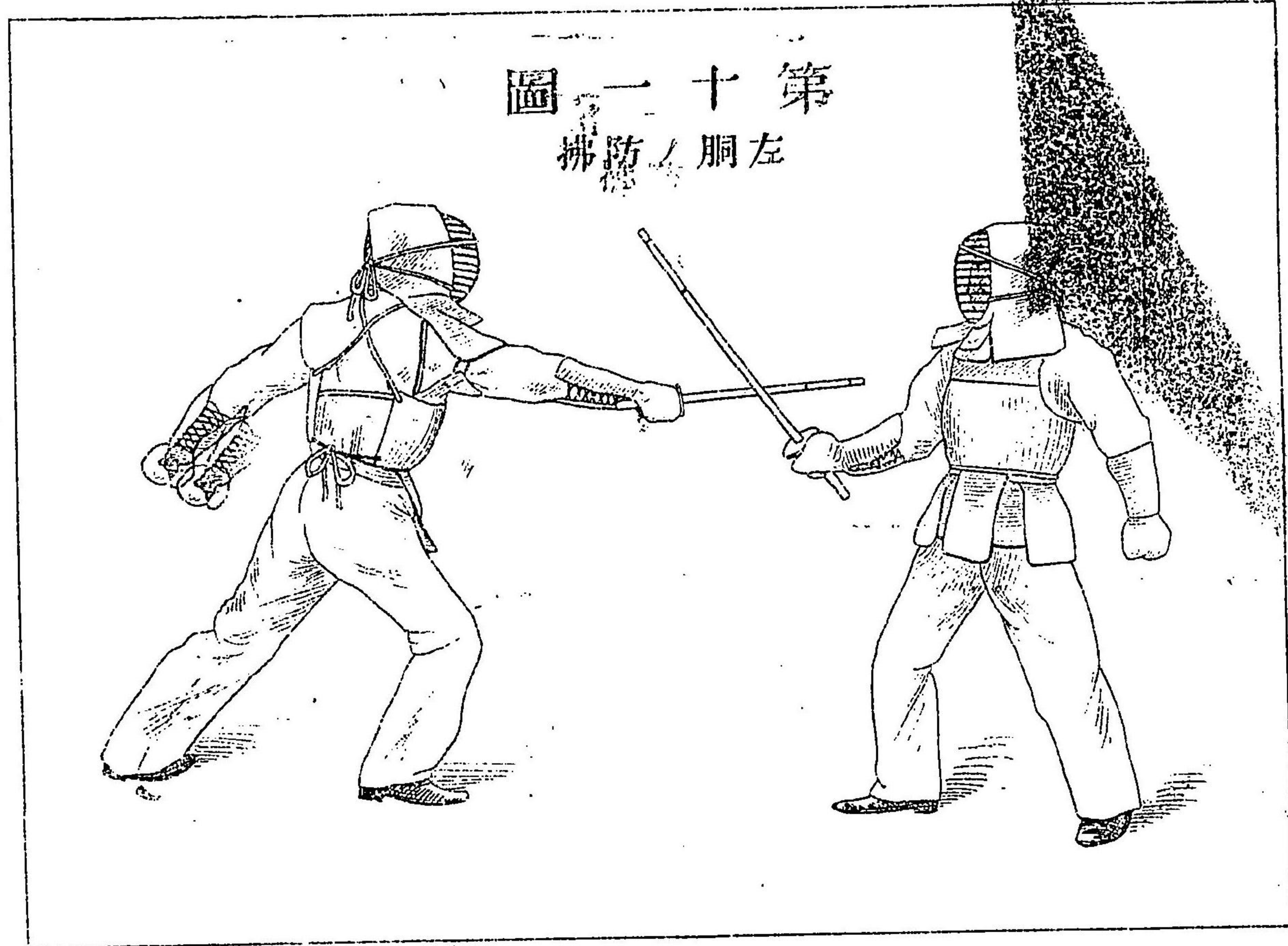


第十圖
拂防 / 突刺

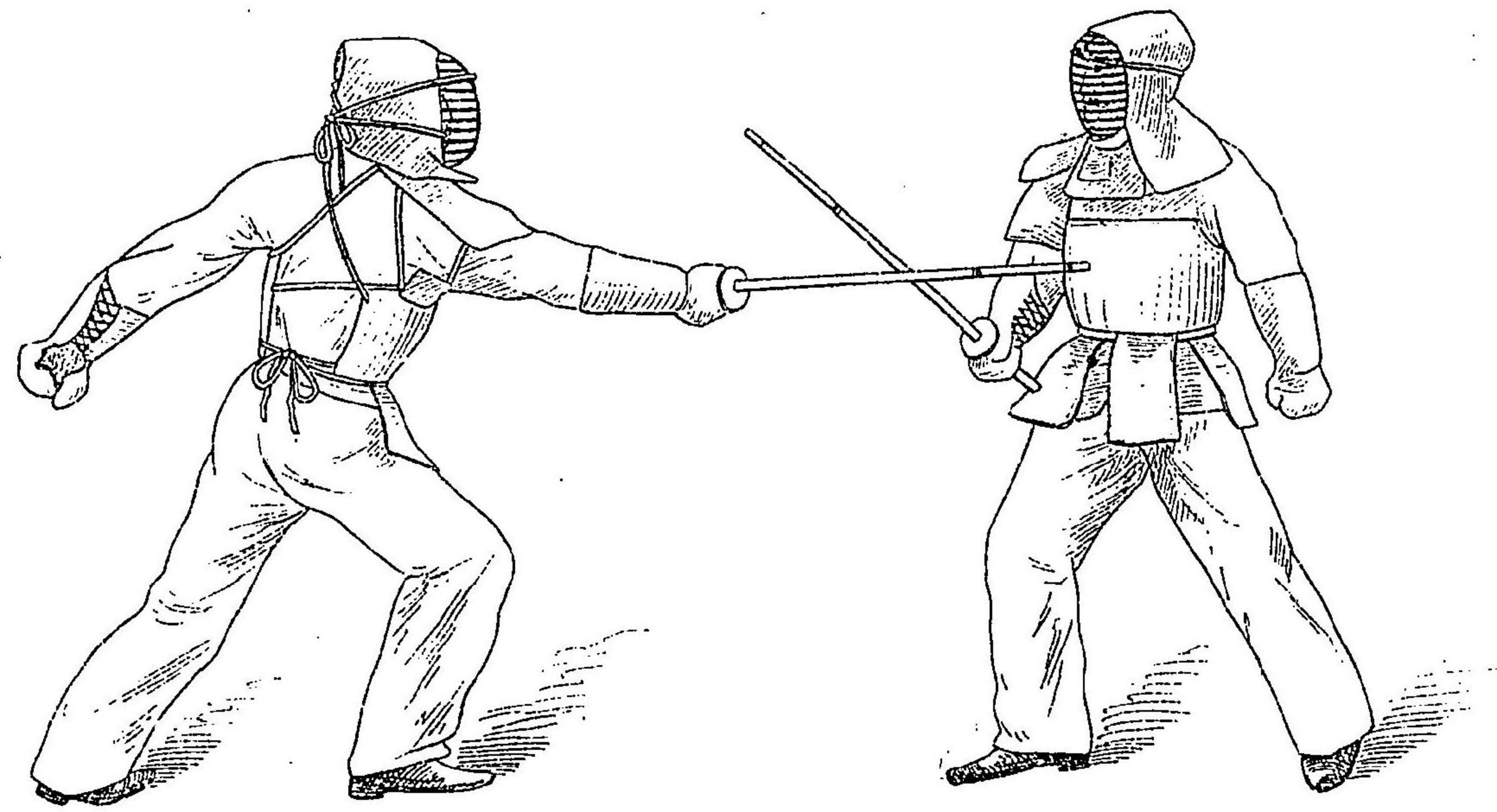
其二

其一

附圖第九版 (第十一圖)

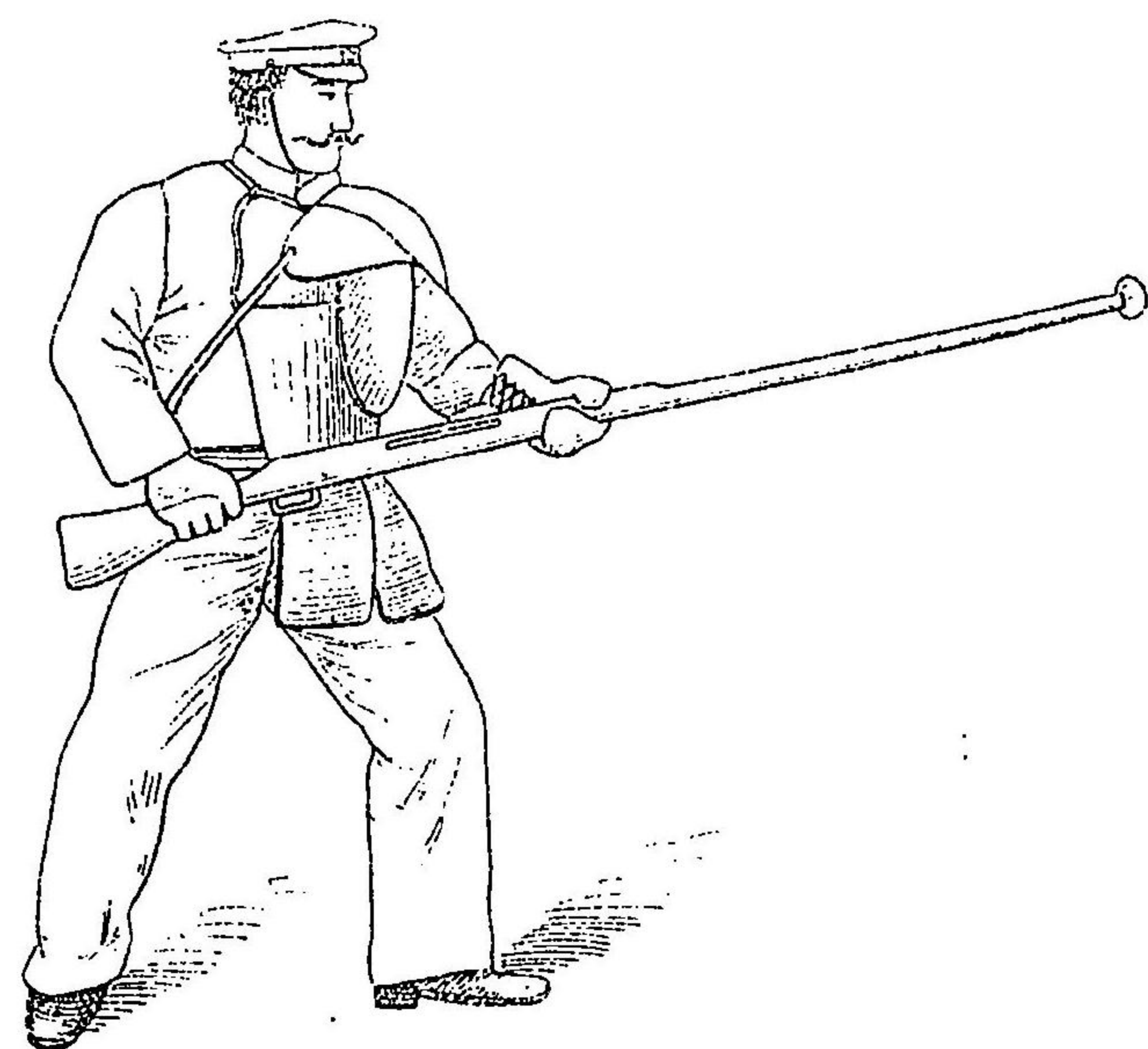


第二十圖
左洞ノ防拂

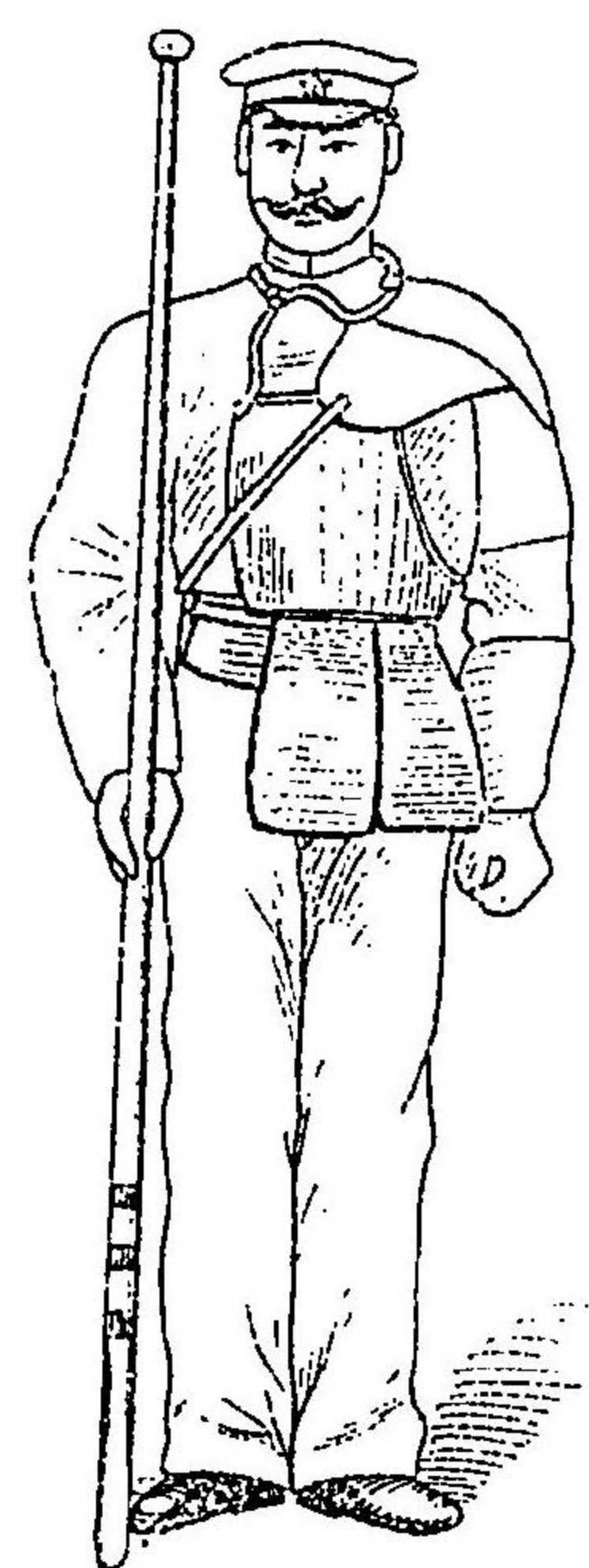


附圖第十版(第十二圖)

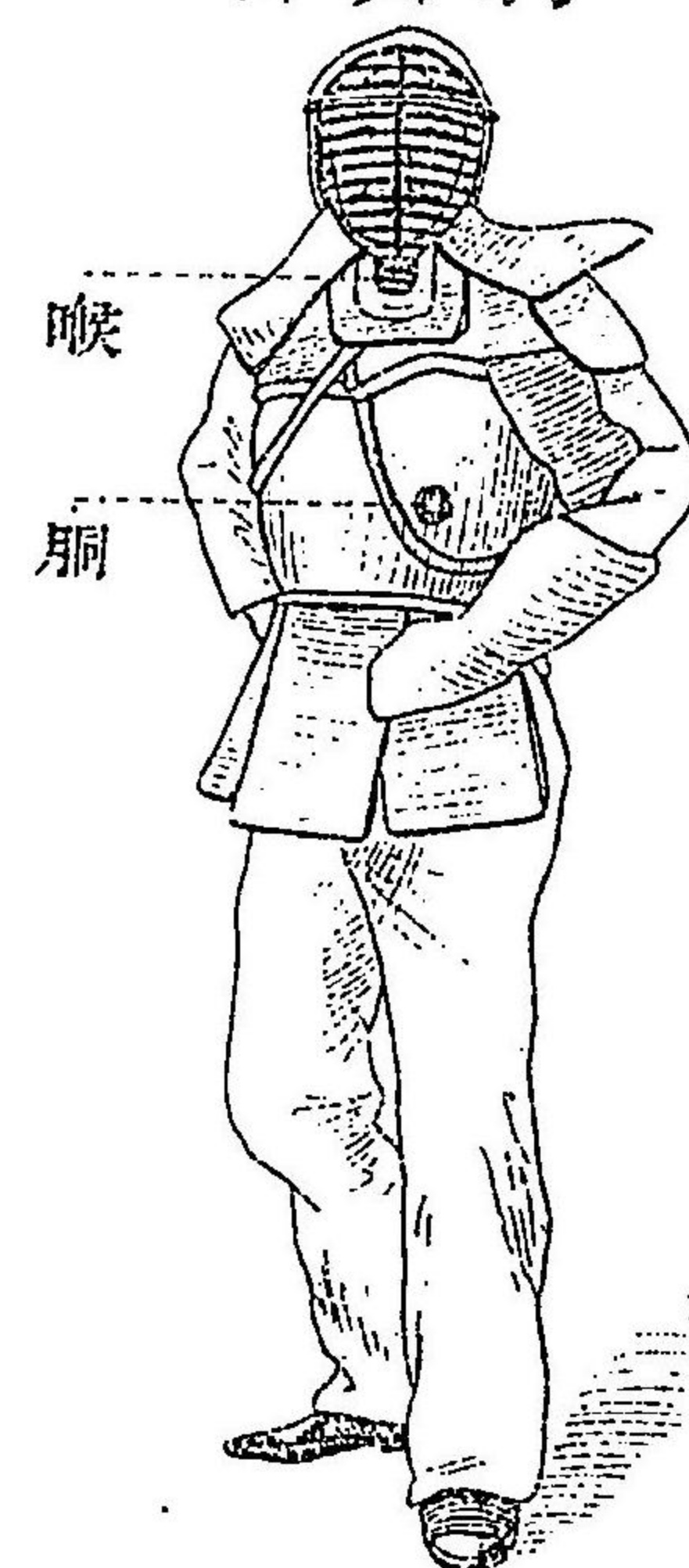
圖五十第
備構



圖四十第
銃立



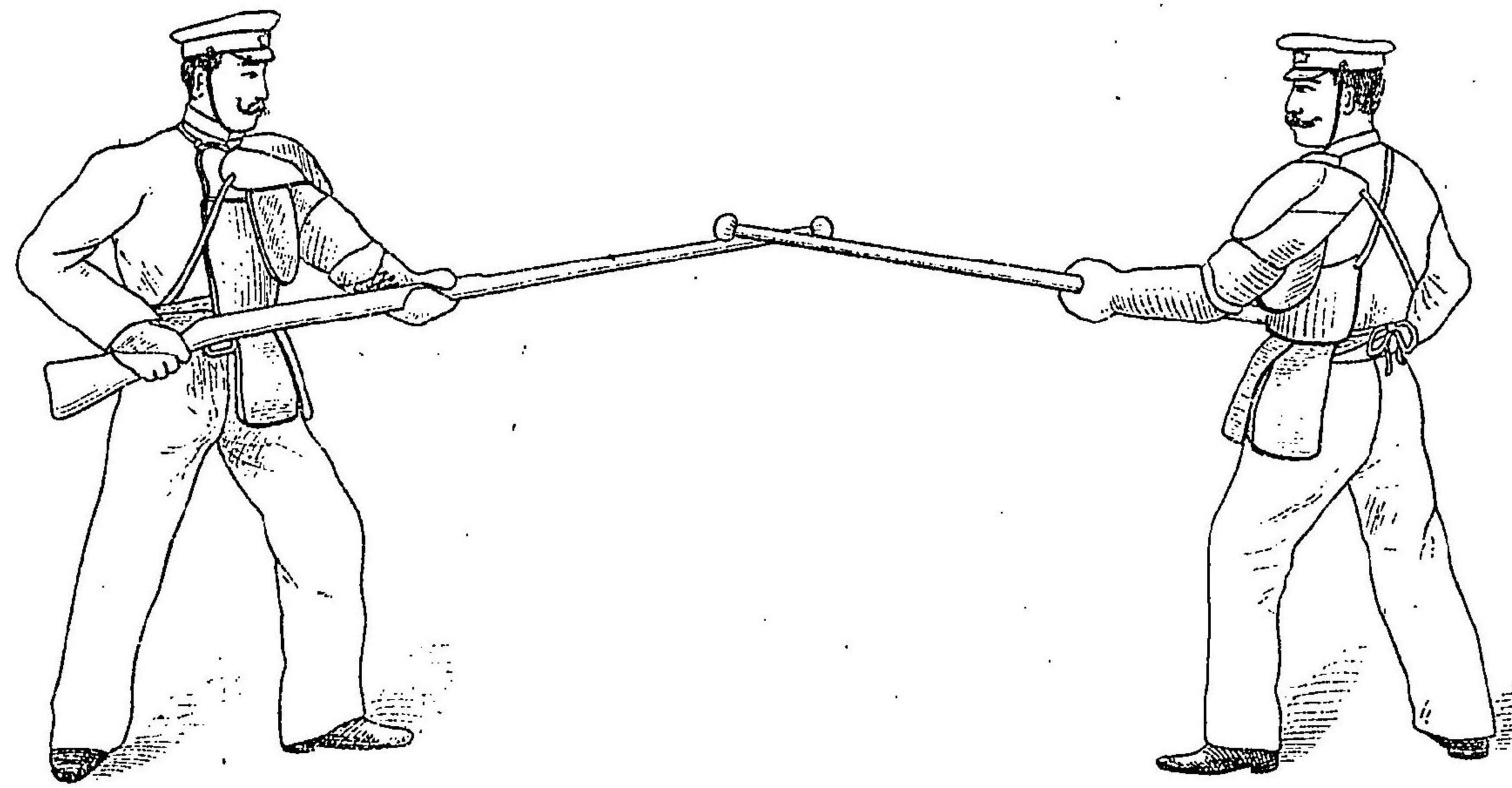
圖三十第
部突刺



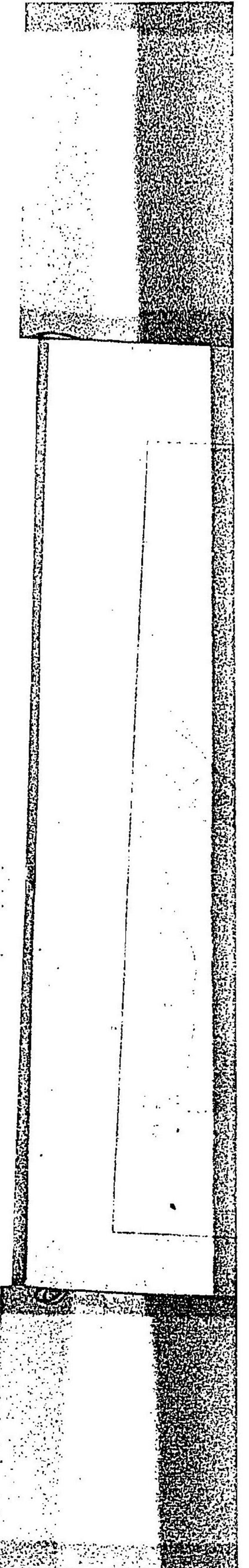
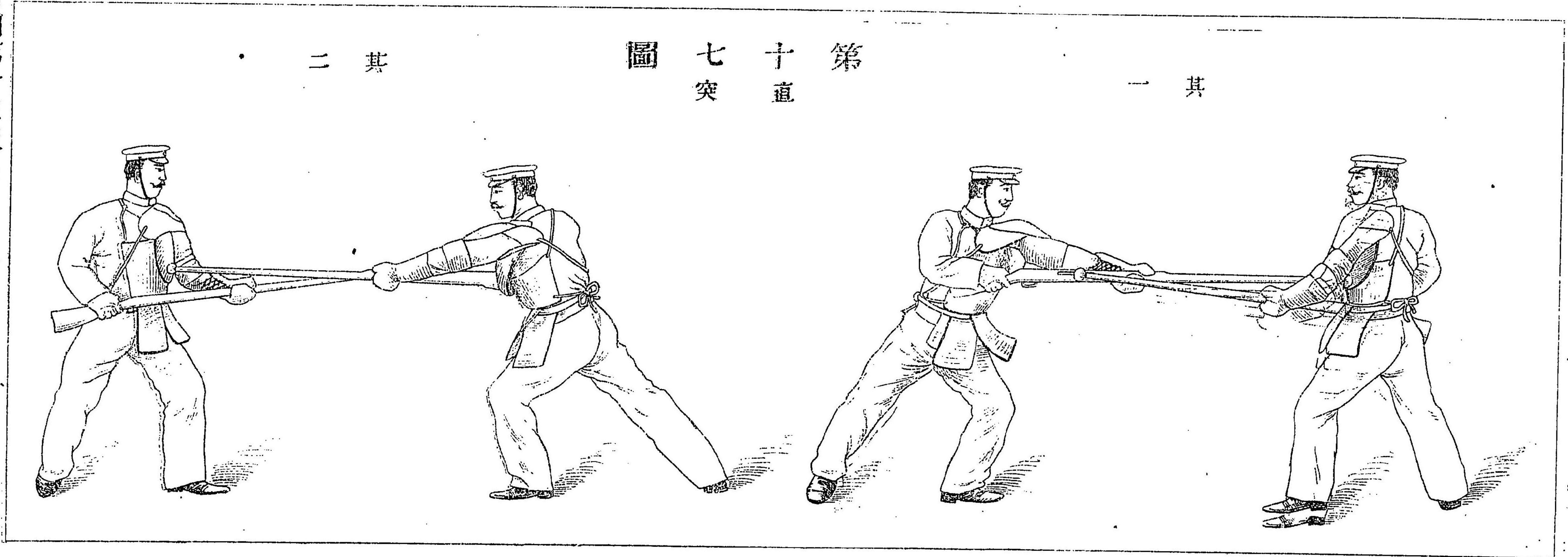
備考

本圖ハ各刺突部ノ主點ヲ示スモノニシ
テ多少偏移スルモ妨ケナシ

圖 六 十 第
又 交 ノ 劍



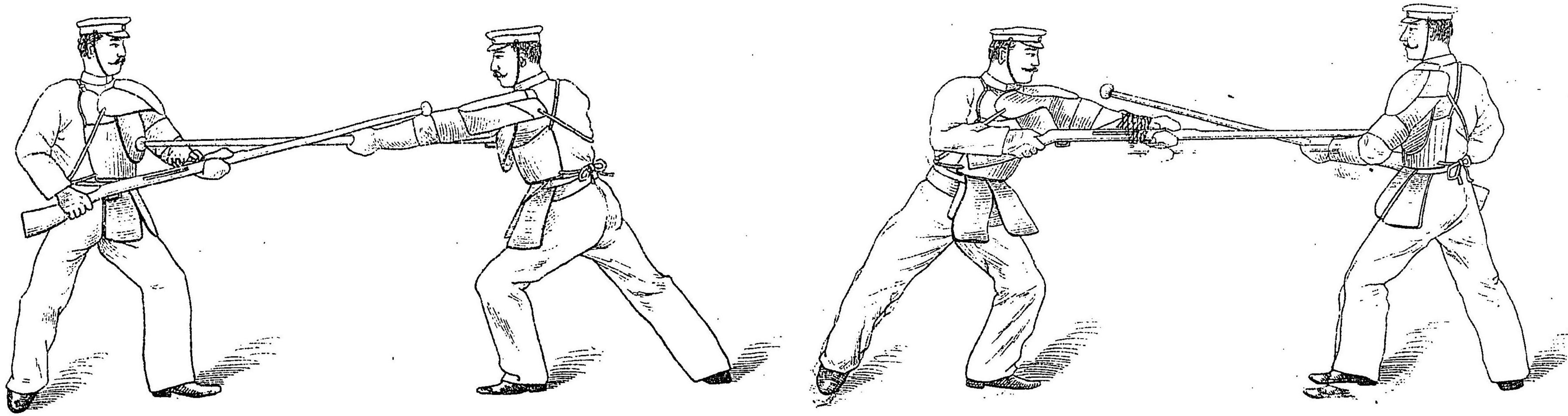
附圖第十二版(第十六圖)



第十版 突八圖

其一

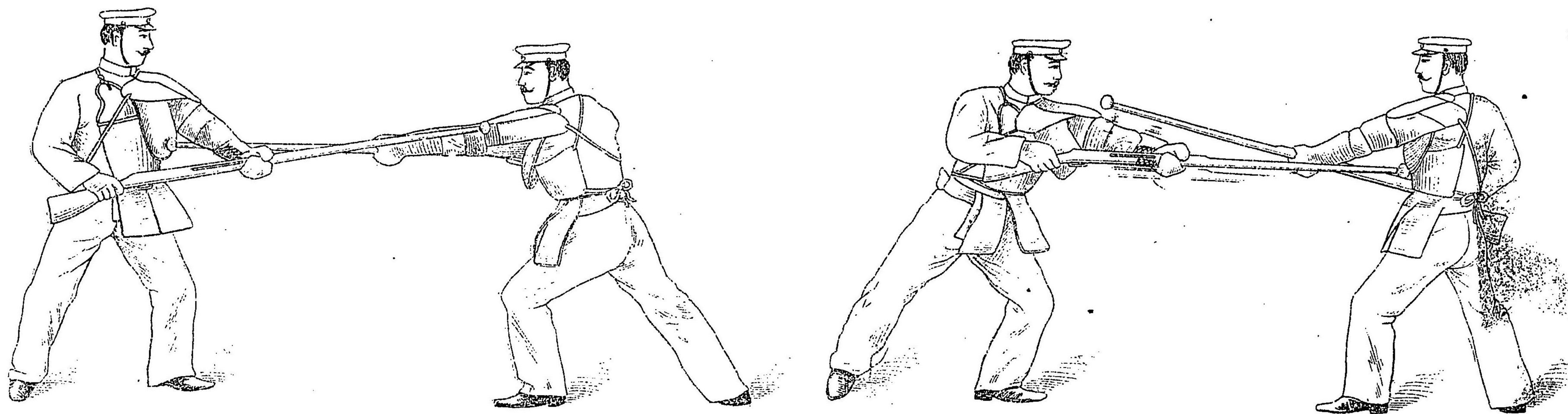
其二



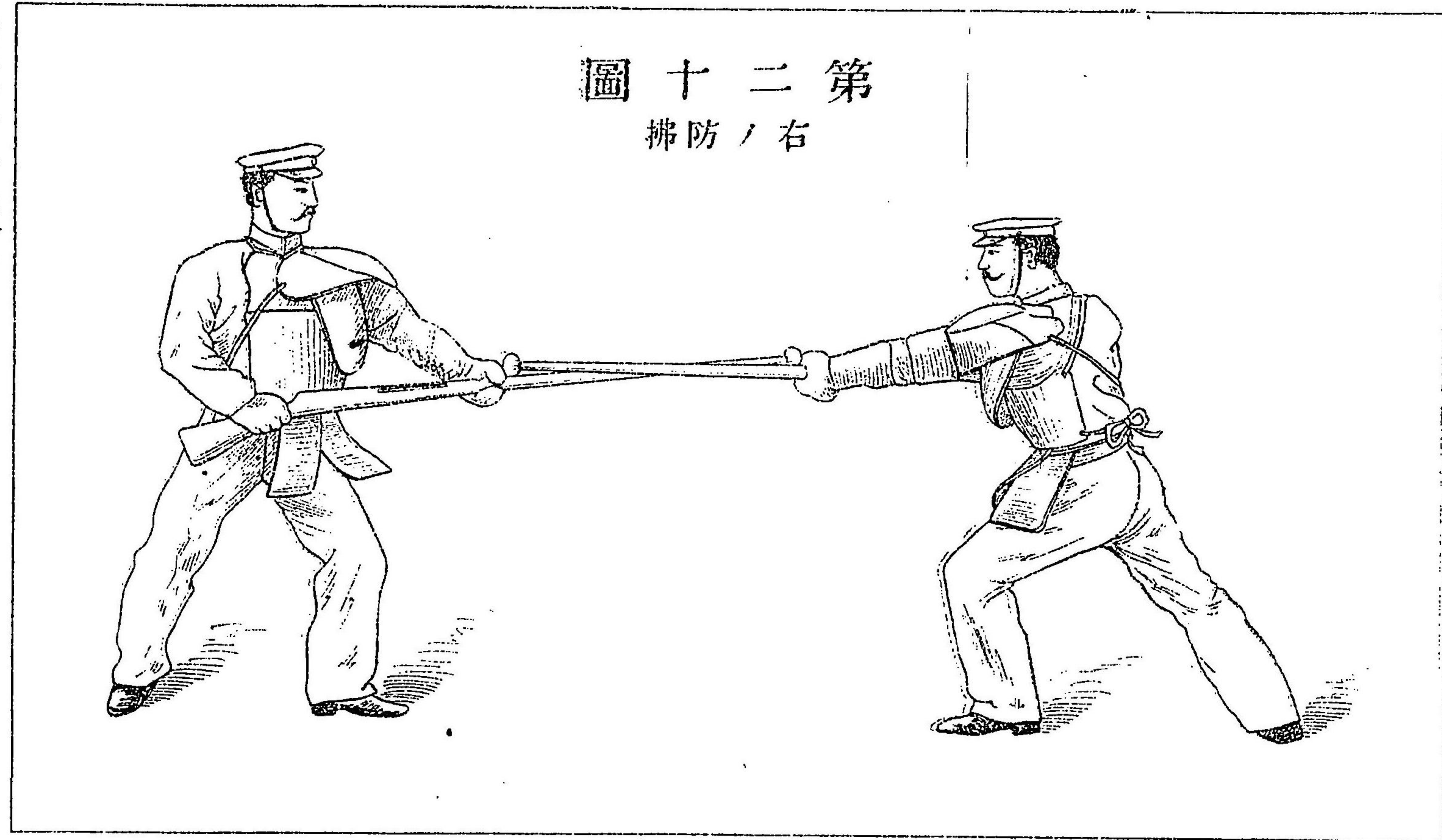
二 其

圖 九 十 第
突 下

一 其

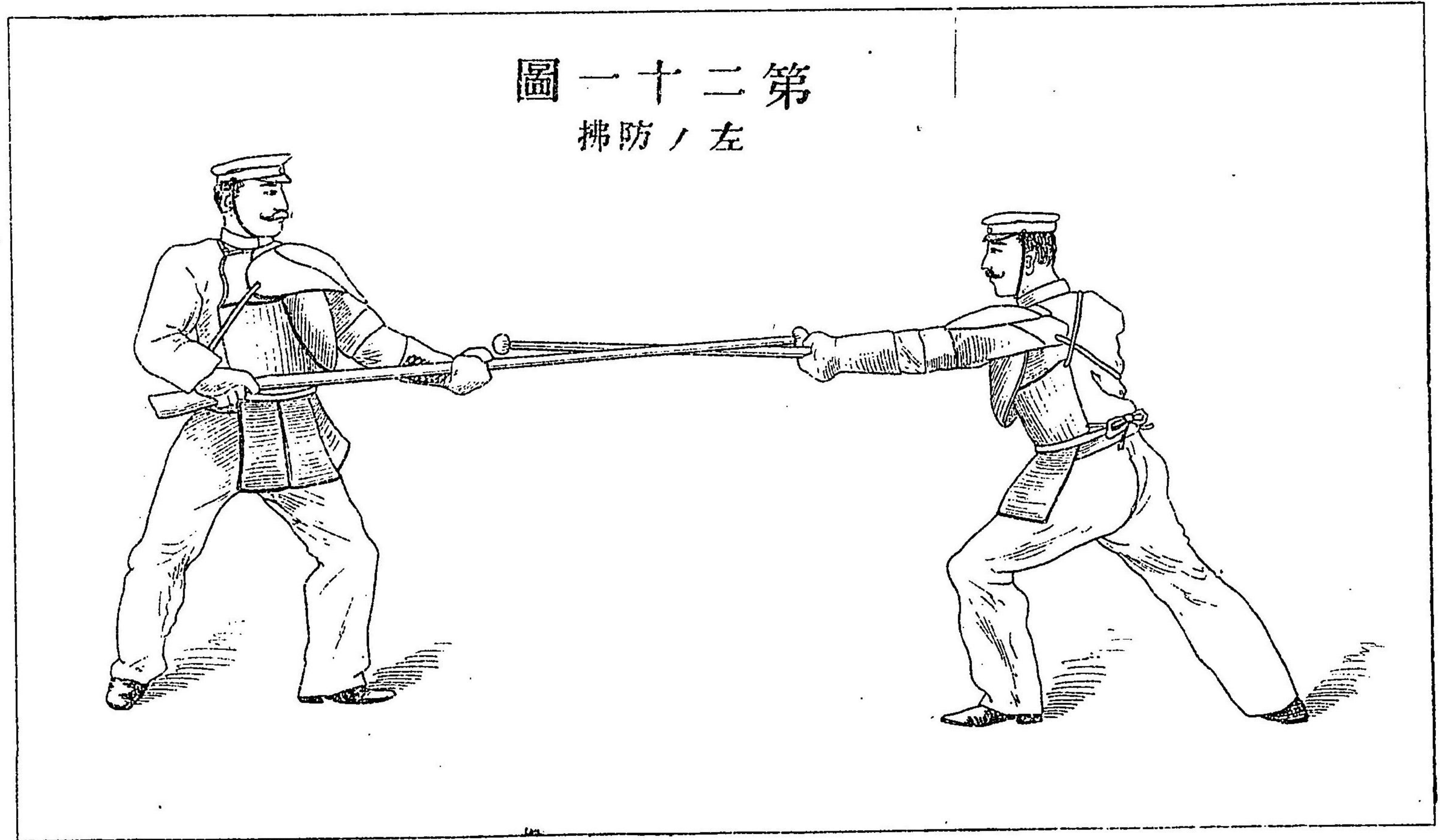


第十二圖
右ノ防拂



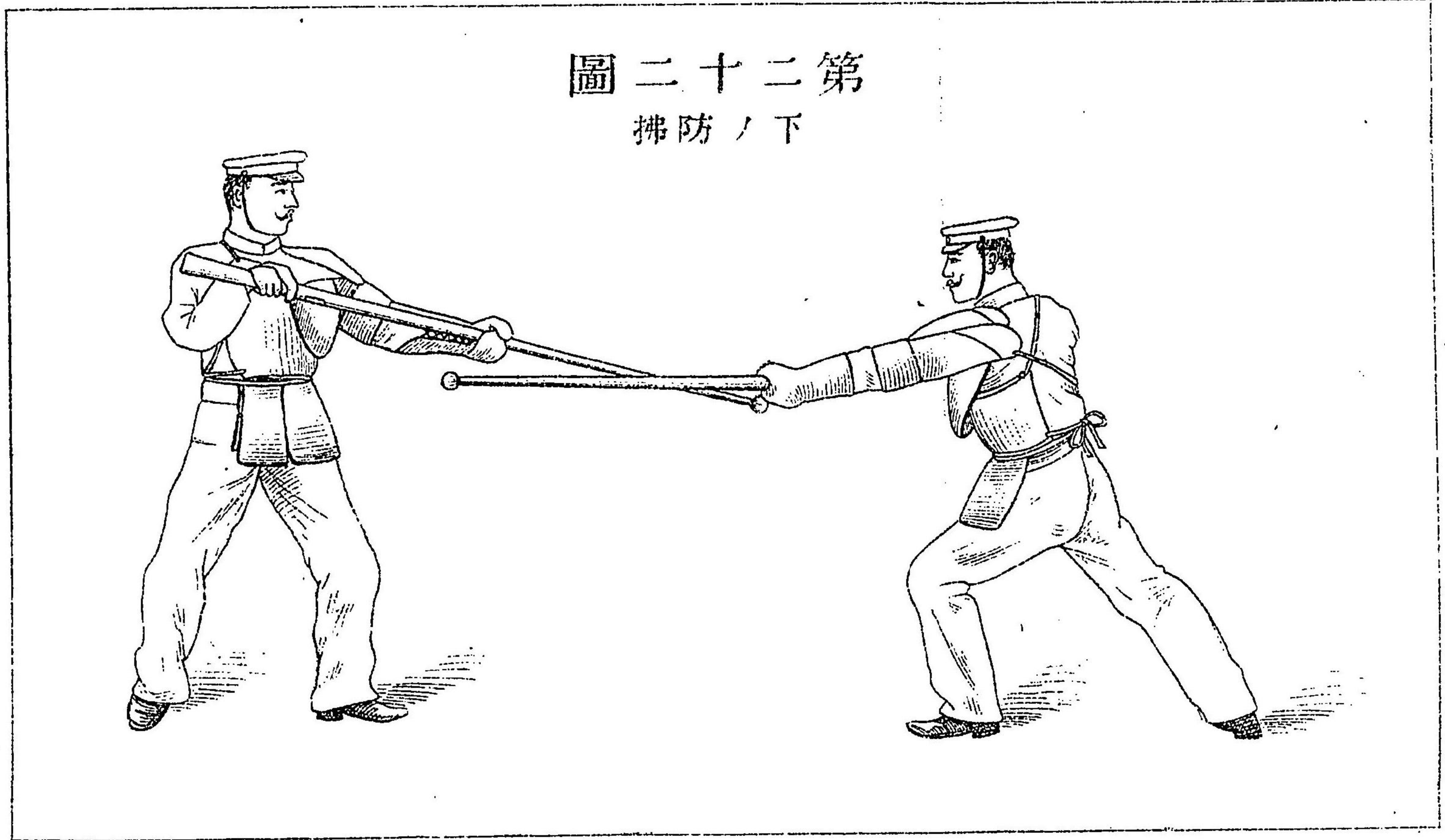
附圖第十六版(第二十圖)

第十二圖
左ノ防拂



附圖第十七版(第二十一圖)

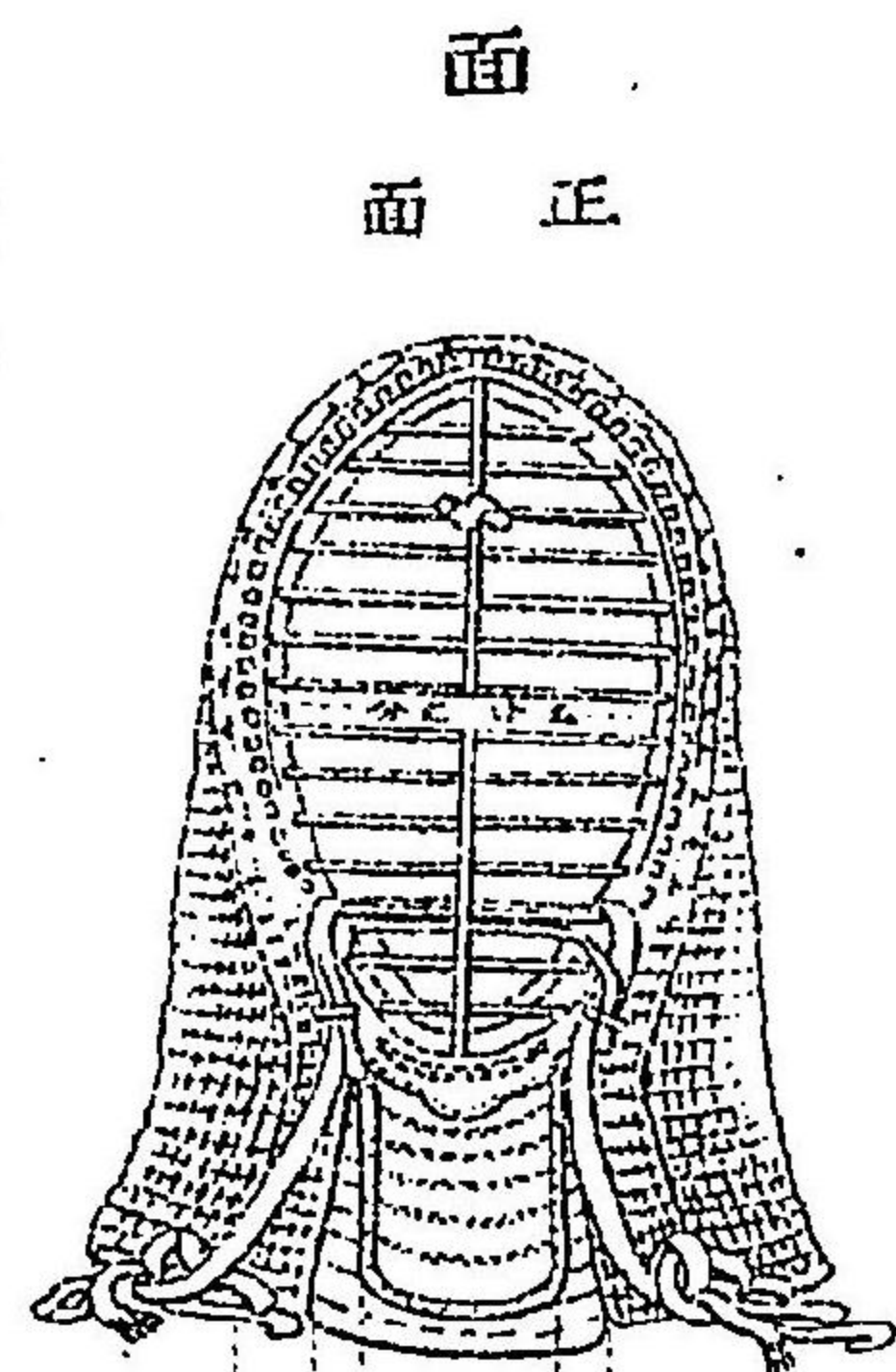
圖二十二第
拂防ノ下



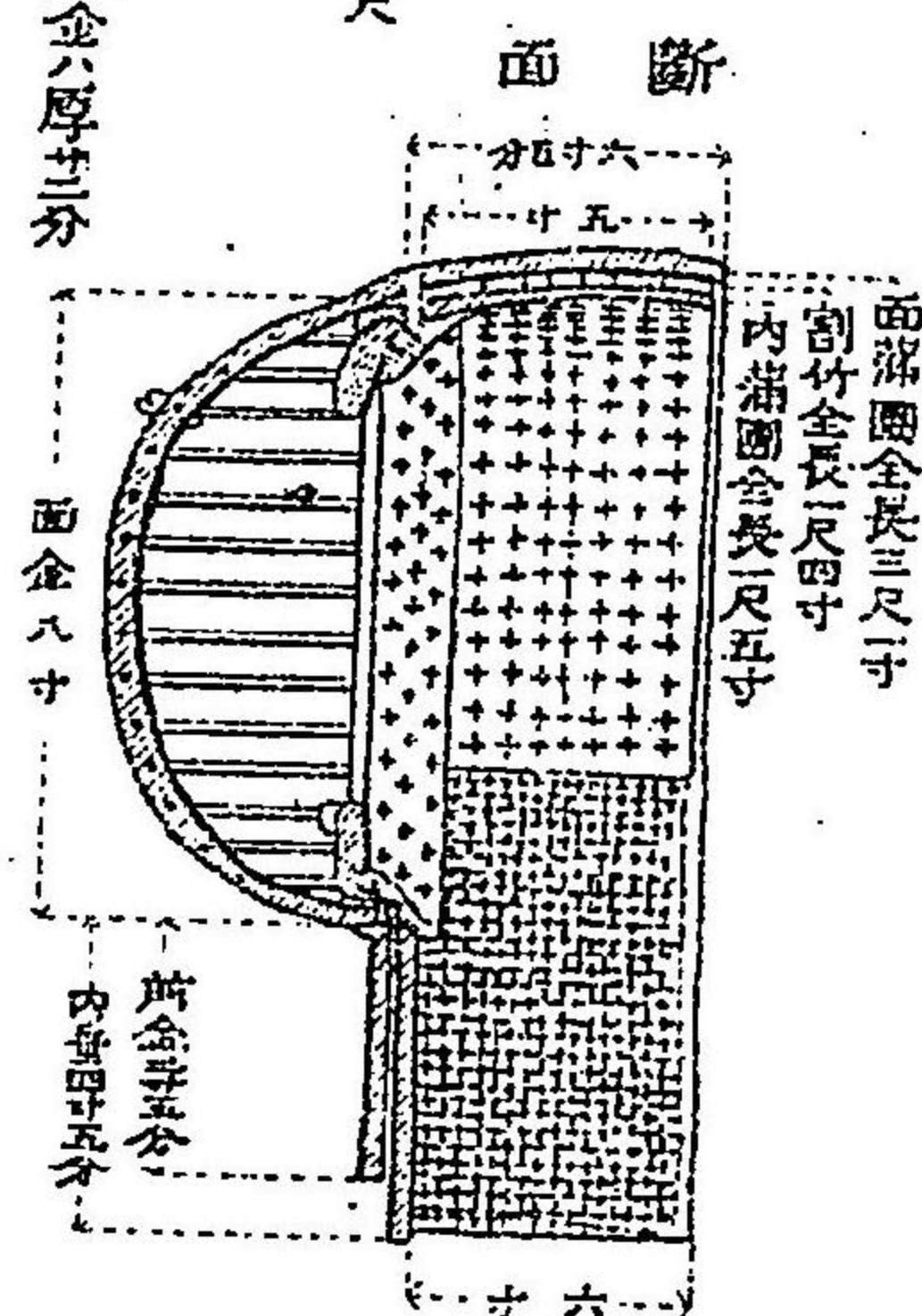
附圖第十八版(第二十二圖)

劍術用具制式圖

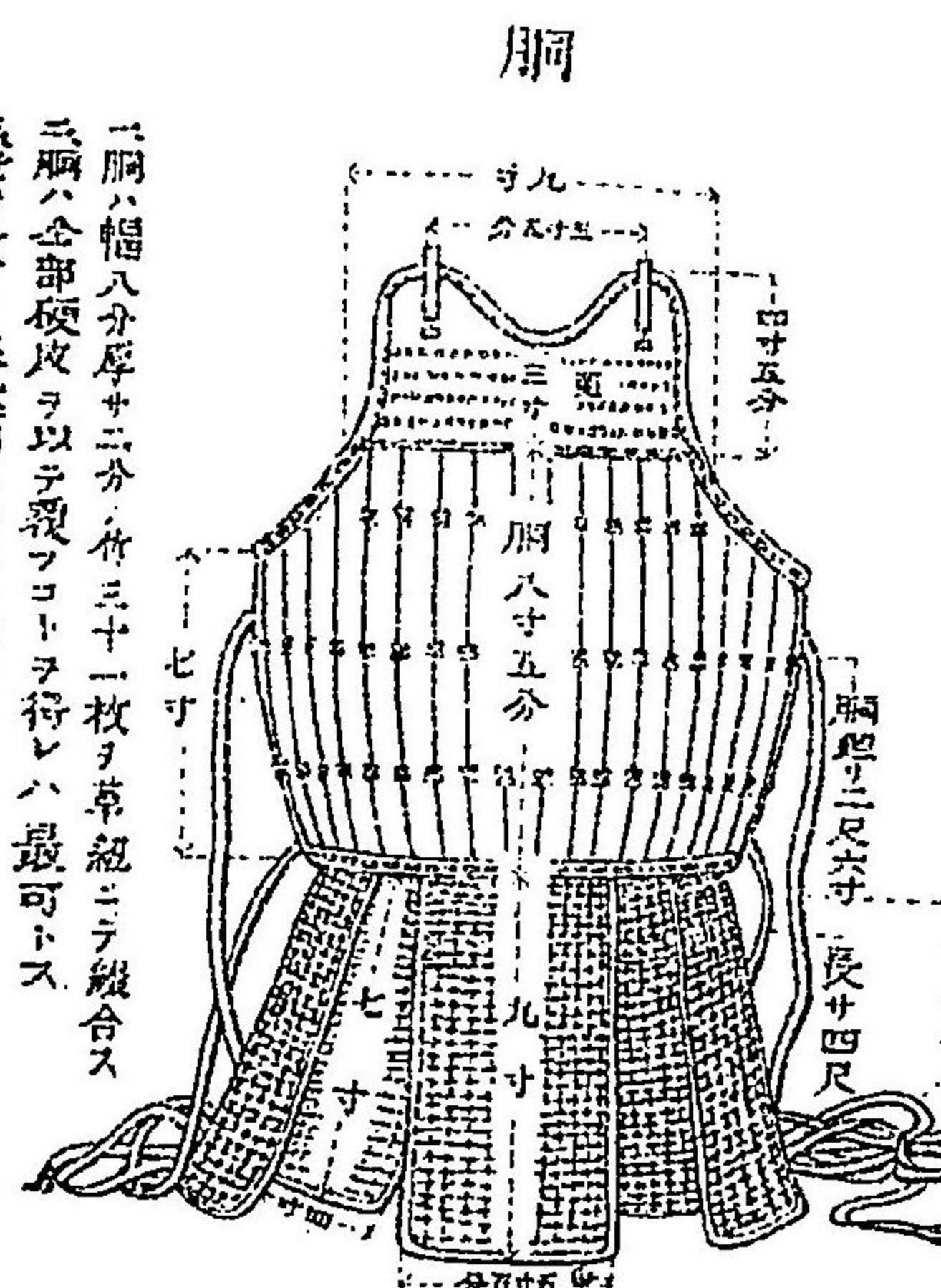
軍刀術用防具



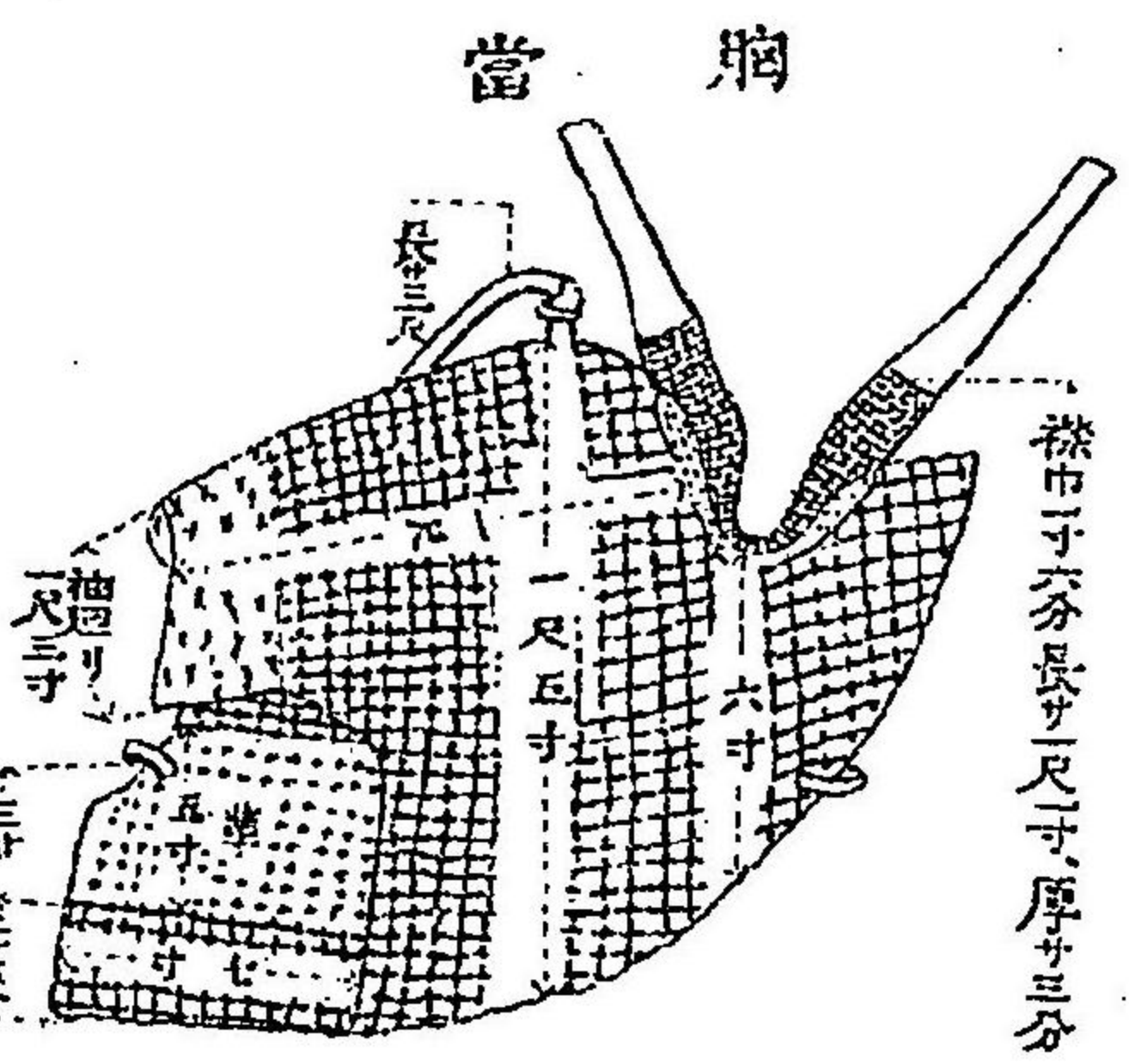
一 面金ノ横金ハ上方六本ハ中徑三分三厘下方七本ハ中徑二分八厘金ノ厚サ二分
 二 面金ノ内外部ニ漆ヲ塗布スルモノトス
 三 面金ノ内耳部ニ上方八五分ノ基盤刺シ厚サ五分下方八三分ノ基盤刺シ
 四 内耳部ハ着脱ヲ容易ニシ五分ノ基盤刺シ厚サ一分
 五 刺シハ幅五分厚サ一分
 六 前部ニ着脱ニシテ厚サ約三分
 七 内装ニ布製ニシテ厚サ約四分



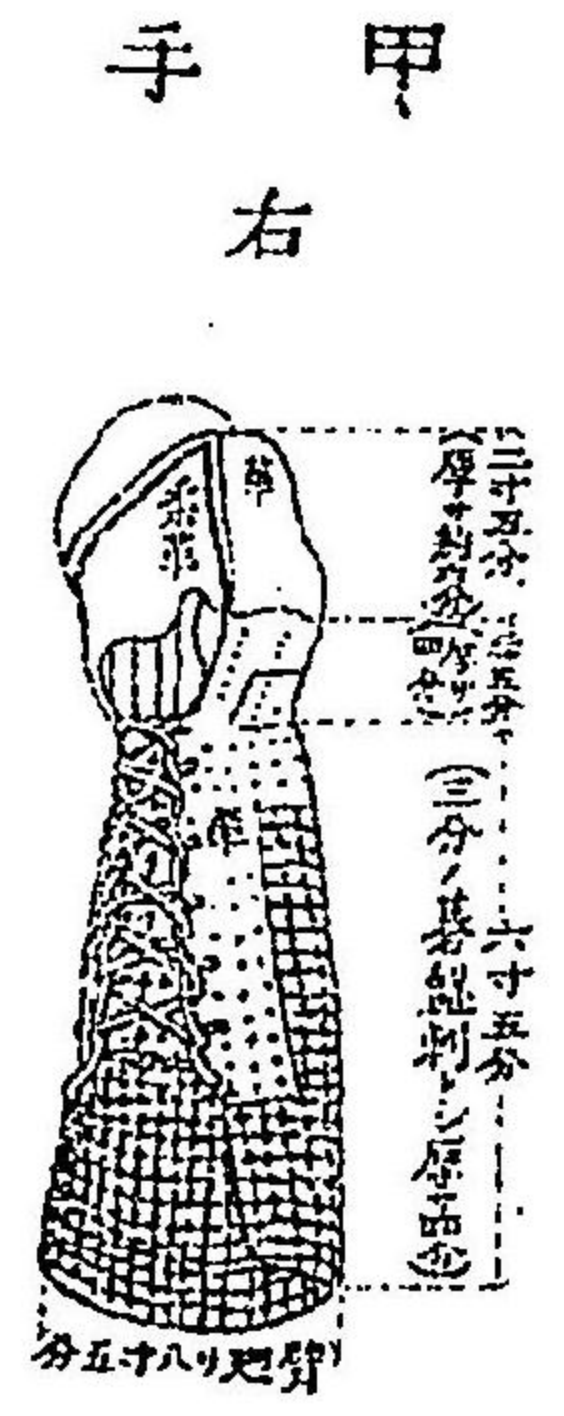
面断圖全長三尺
 割付全長尺四寸
 内装圖全長尺五寸



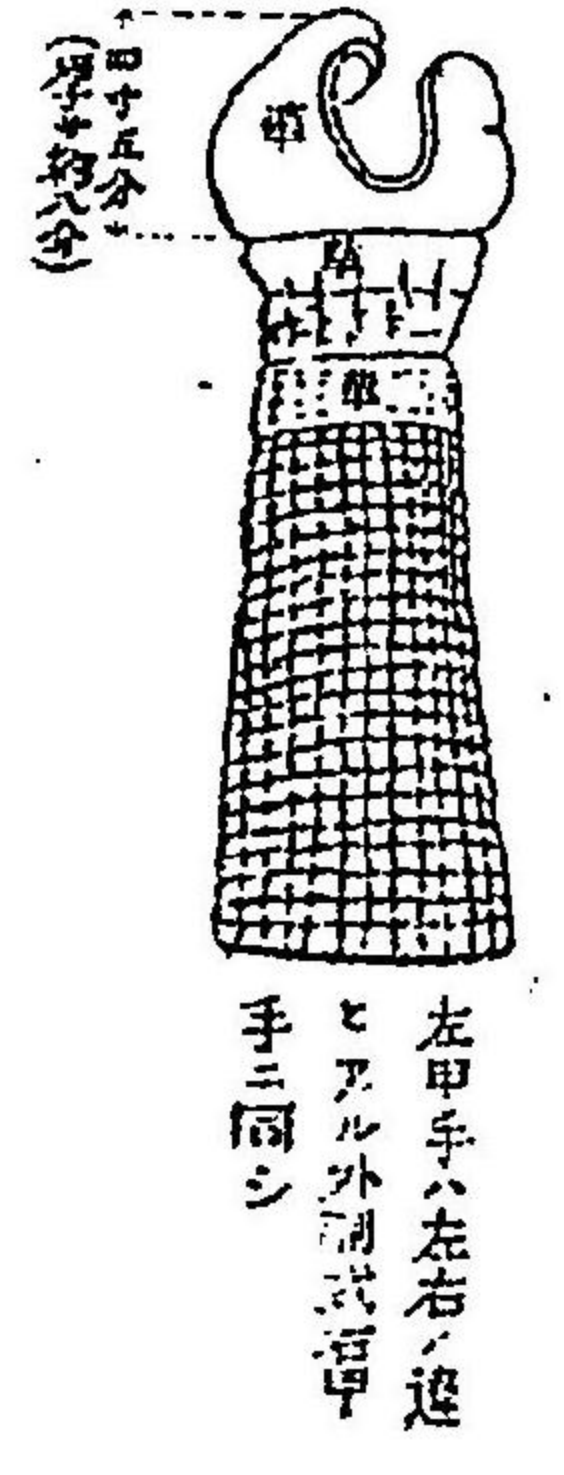
一 胸幅八分厚サ二分ノ竹三十一枚ヲ草紐ニテ組合ス
 二 胸ハ全部板皮ヲ以テ覆フコトヲ得レハ最可トス
 三 並ハ三分ノ基盤刺シ厚サ四分



襟巾寸二分長サ一尺二寸厚サ三分



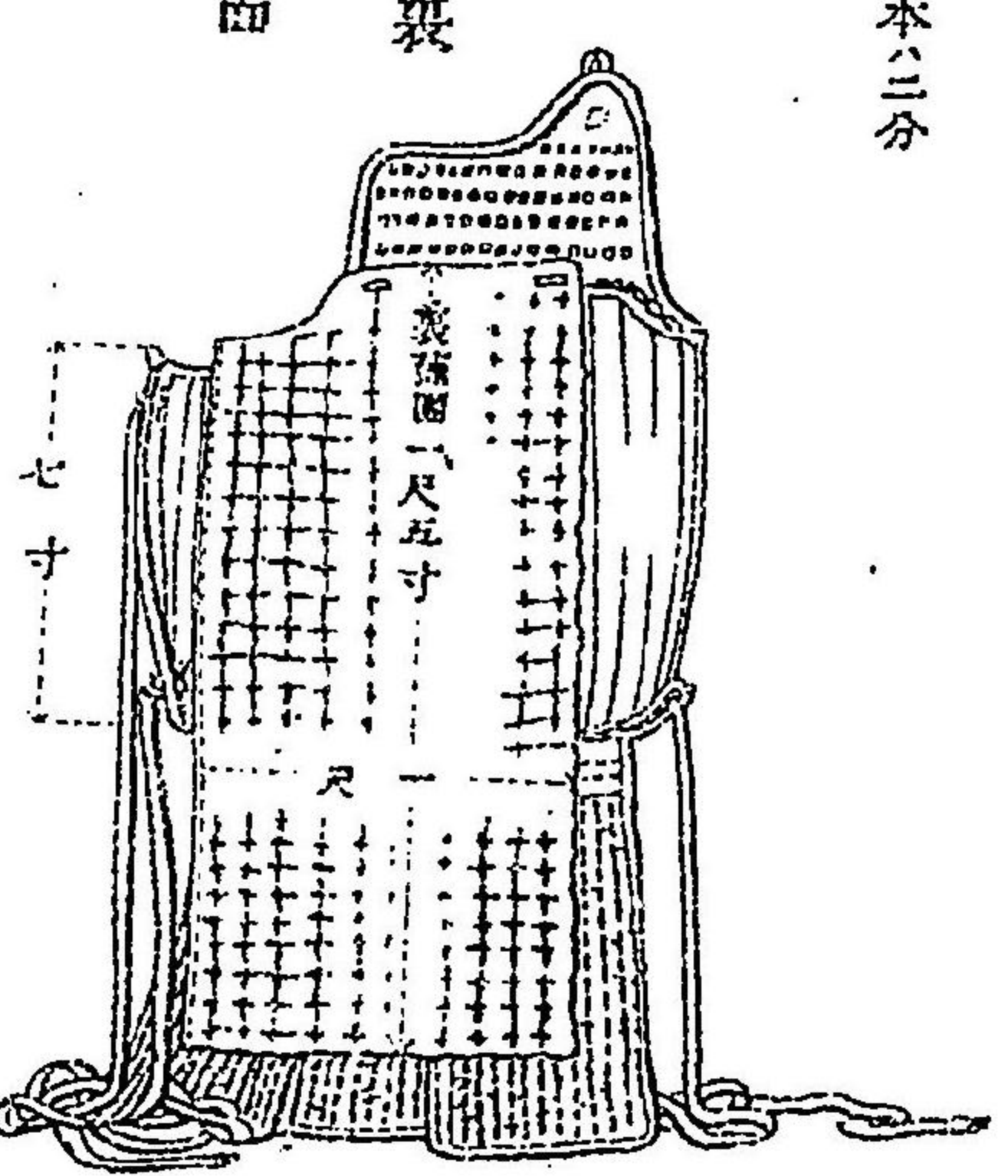
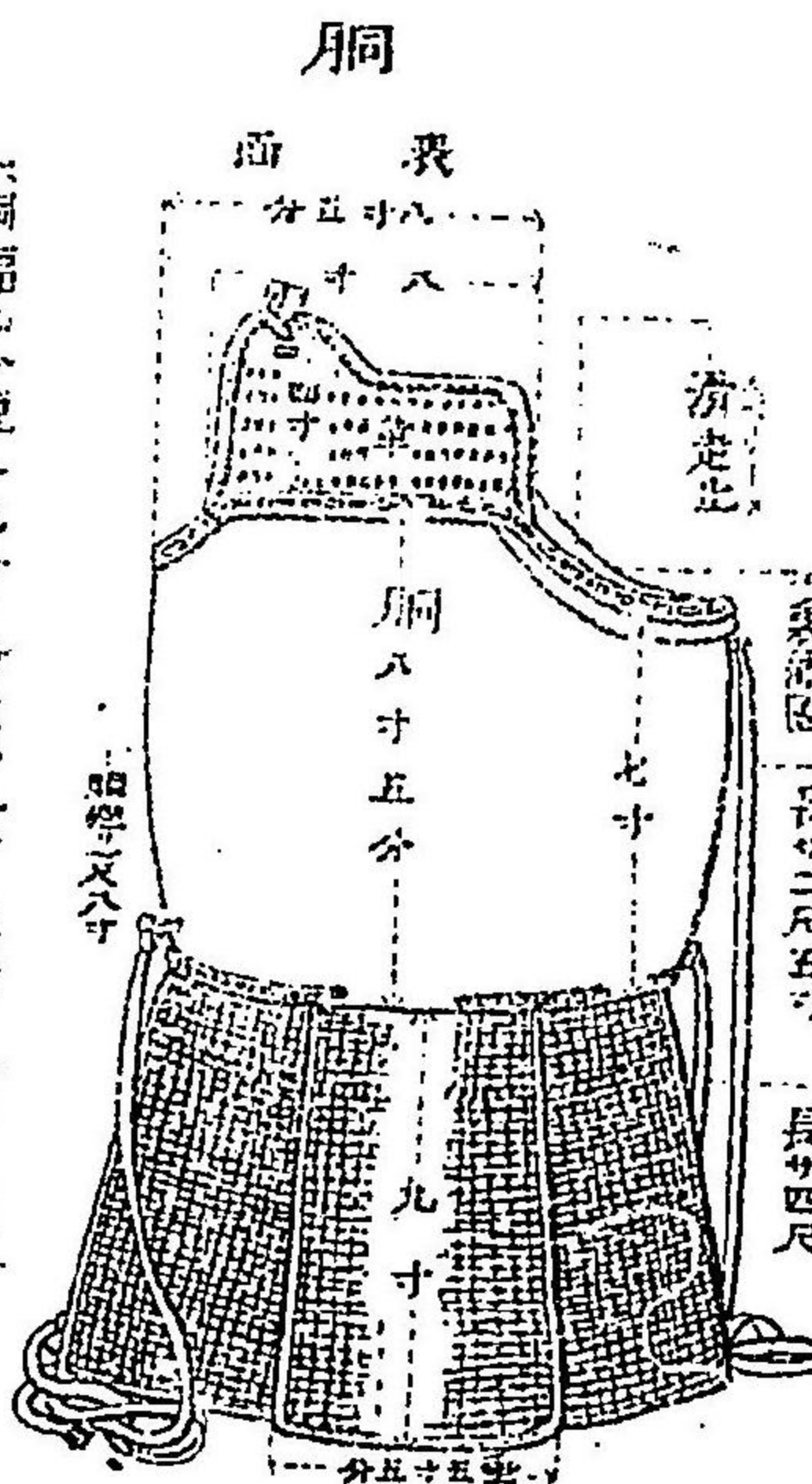
一 手甲ノ長サ約五分
 二 手甲ノ幅約五分
 三 手甲ノ厚サ約五分



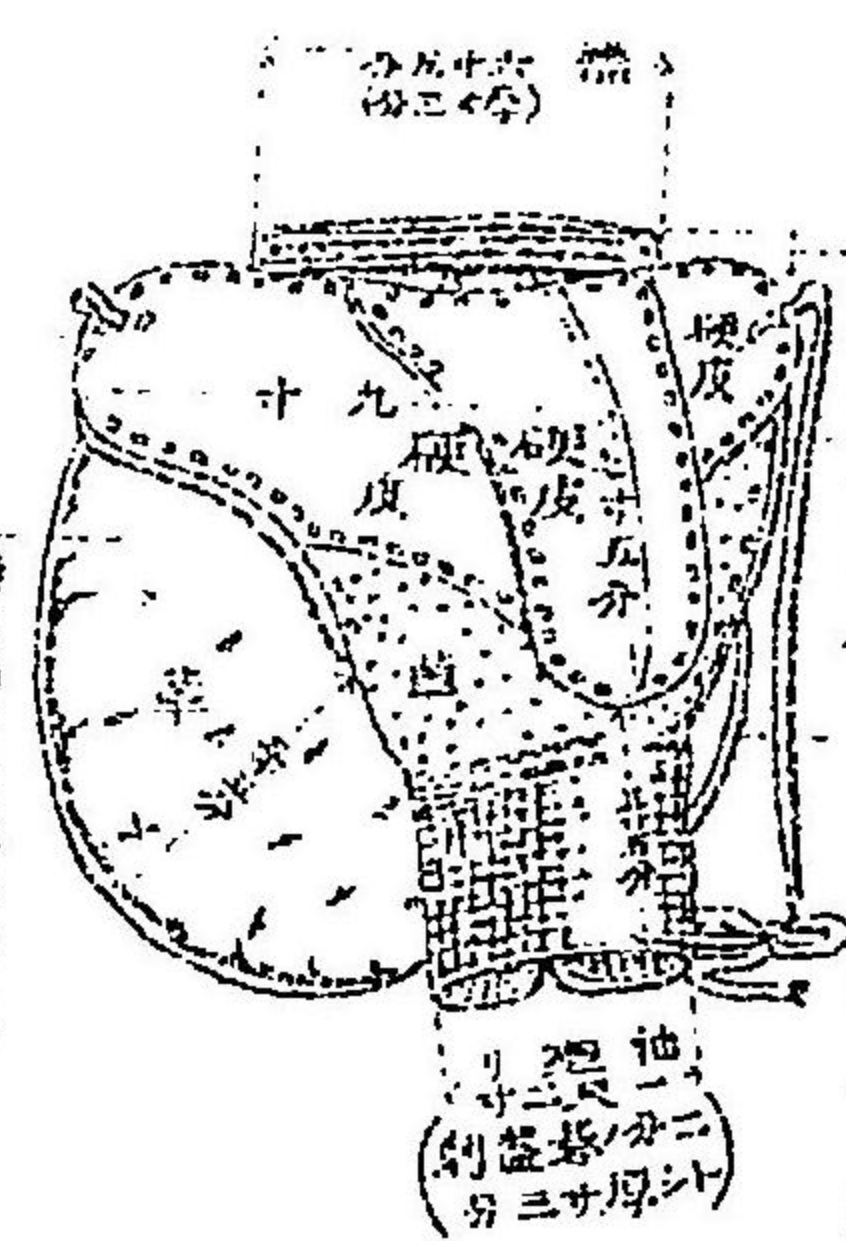
左手ハ左右進
 ヒアル外制式同
 手二同シ

銃劍術用防具

左ノ諸點ノ外軍刀術用ノ面下制式ヲ同フス
 (1) 割竹及内装圖ヲ除ク
 (2) 面金ノ横金上方四本ハ中徑二分八厘下方二本二分
 (3) 面金ノ全長ヲ二尺九寸トス
 裏装圖一長サ二尺五寸 長サ四尺

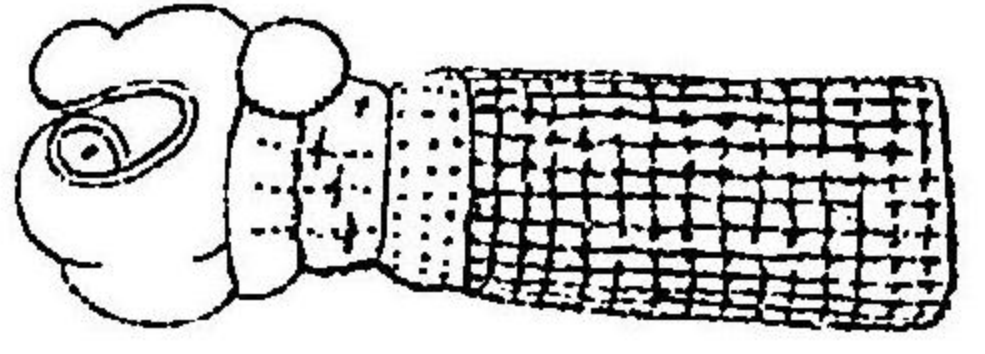


肩



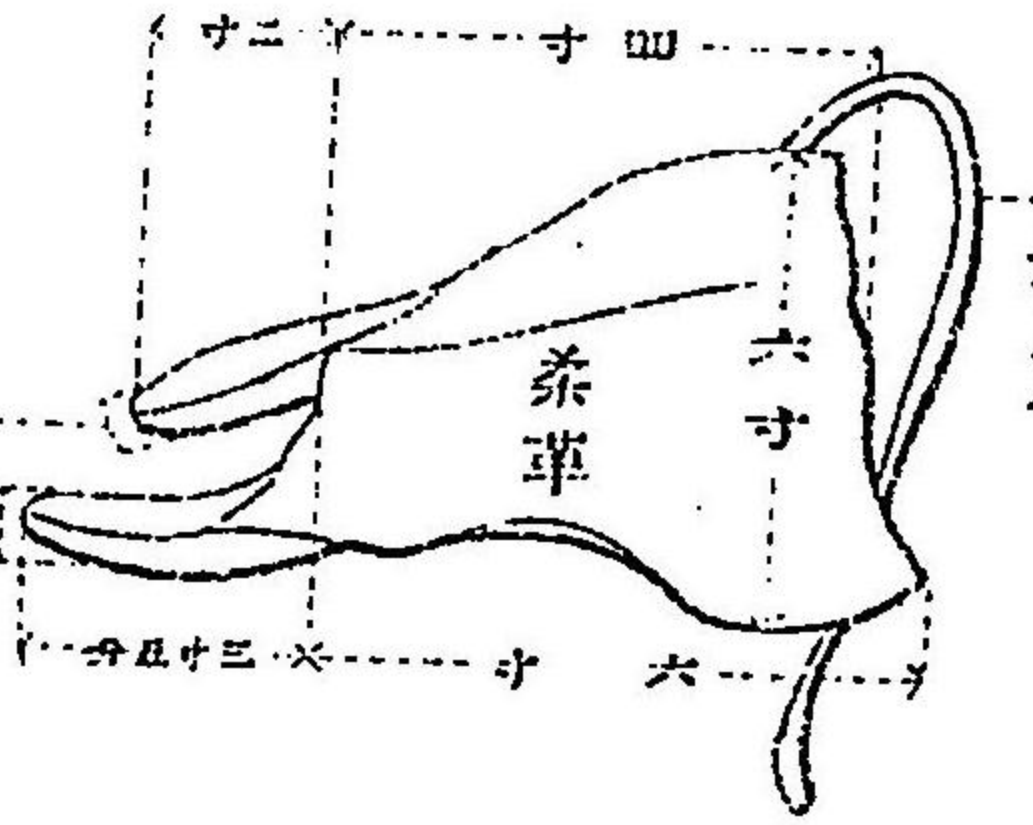
一 襟ハ軟革ヲ以テ肩ニ接合ス
 二 脇下ノ胸前ヲ厚クシ腋下ヲ稍薄クス

手甲



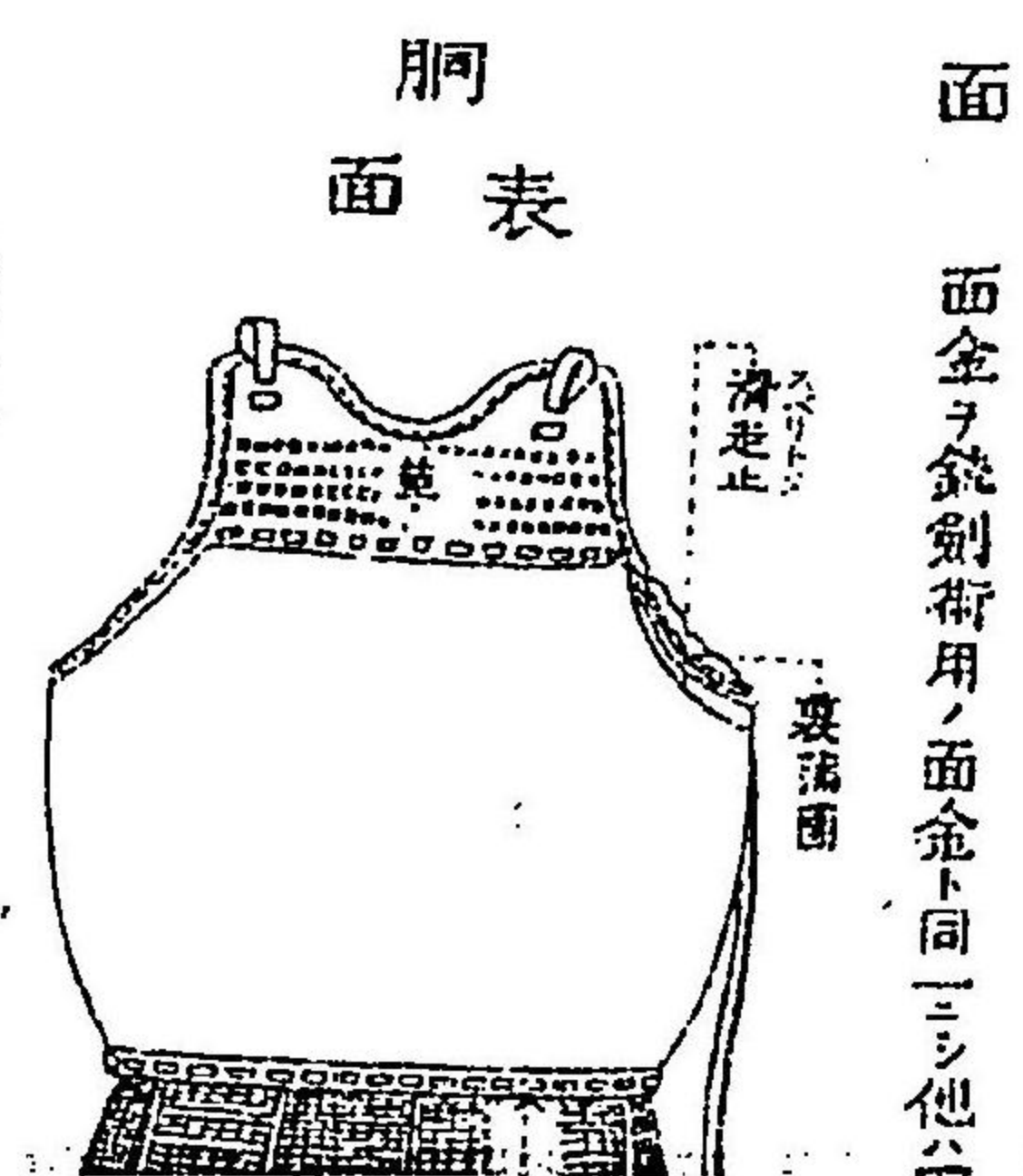
一 尺度ハ概ネ軍刀術用左手手
 二 同シ但シ指部ノ厚サテ
 約一寸トシ指部ノ後部ニ
 中指約三分五分厚サ約六分

指袋



一 長サ二尺
 二 六寸
 三 糸革
 四 厚サ二分
 五 厚サ五分

軍刀銃劍術



面金ヲ銃劍術用ノ面金ト同一シ他ニ

一 胸幅八分厚サ二分ノ竹三十一枚ヲ草紐ニテ組合ス
 二 並ヲ除ク外尺度ハ凡テ軍刀術用胸ニ同
 三 裏装圖ハ銃劍術用胸ニ同シ

軍刀術用胸當ニ同シ

銃劍術用肩同シ

右手手ハ軍刀術用左手銃劍術

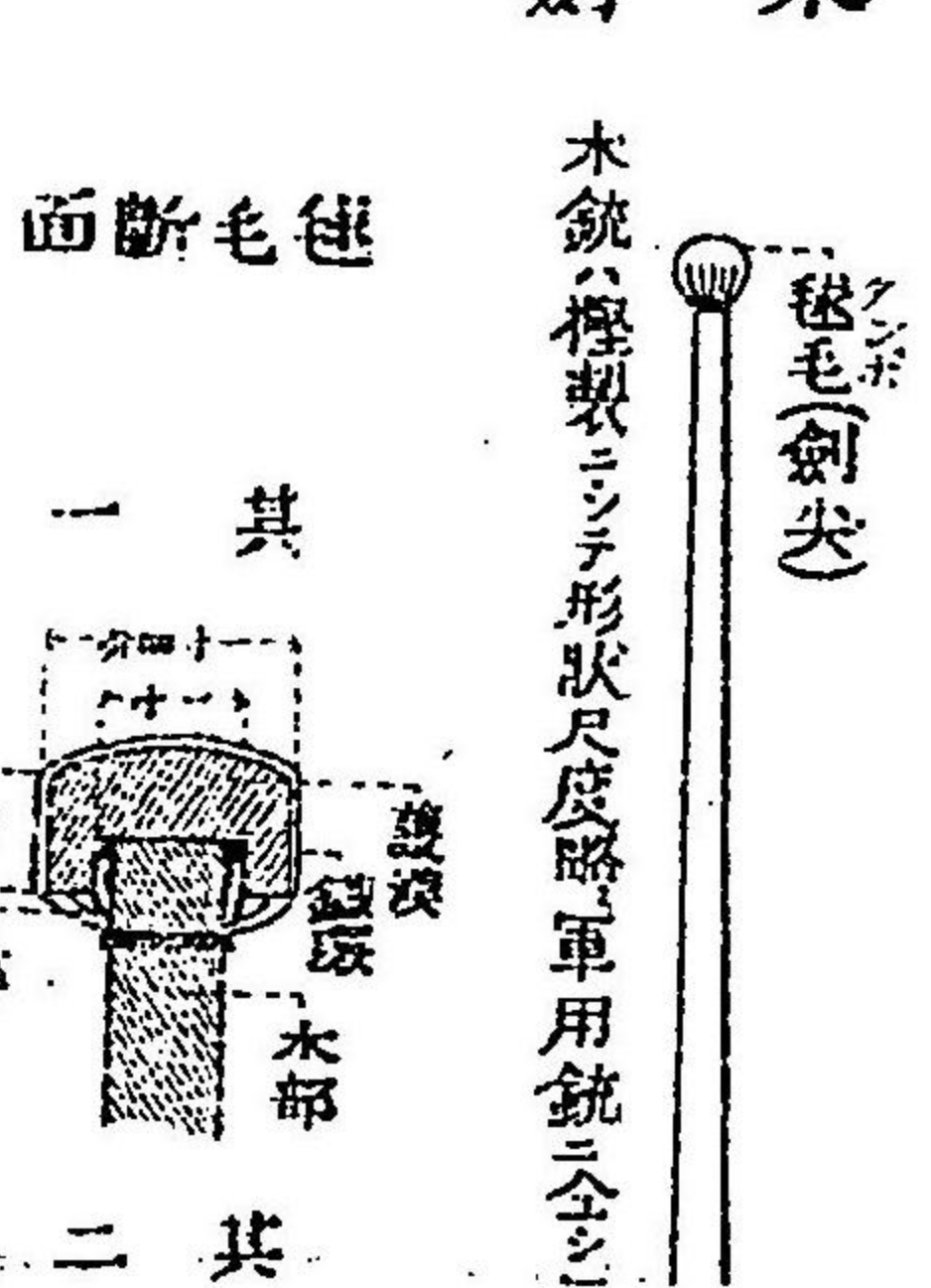
銃劍術用指袋ニ同シ

竹刀及木銃

一 竹刀ハ割竹四枚ヲ合セタルモノトス
 二 竹刀ノ全長或ハ柄長ハ兵科ニ依リテ之ヲ伸

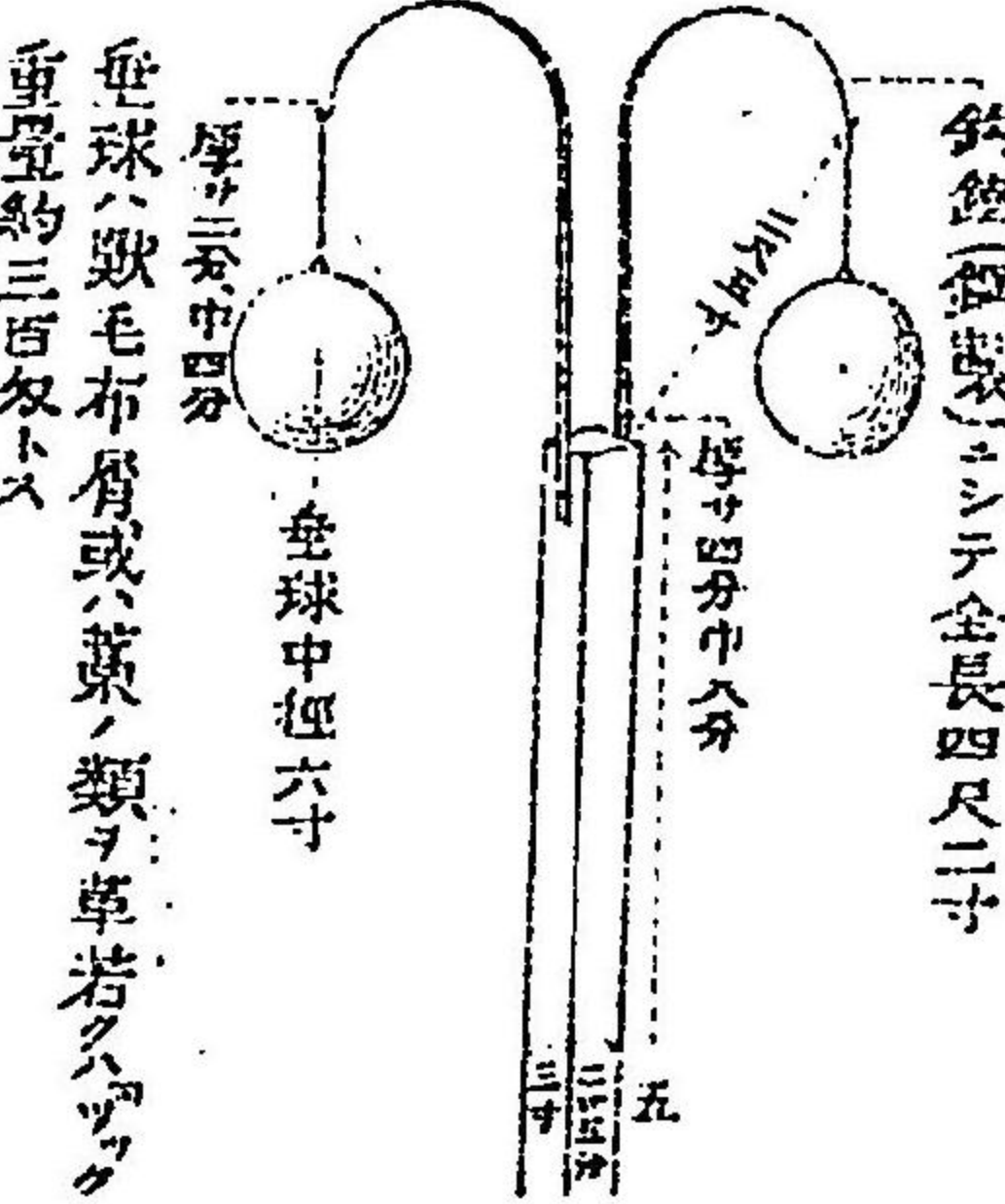
縮毛(劍尖)

木銃ノ極製ニシテ形状尺皮略軍用銃ニ合シ



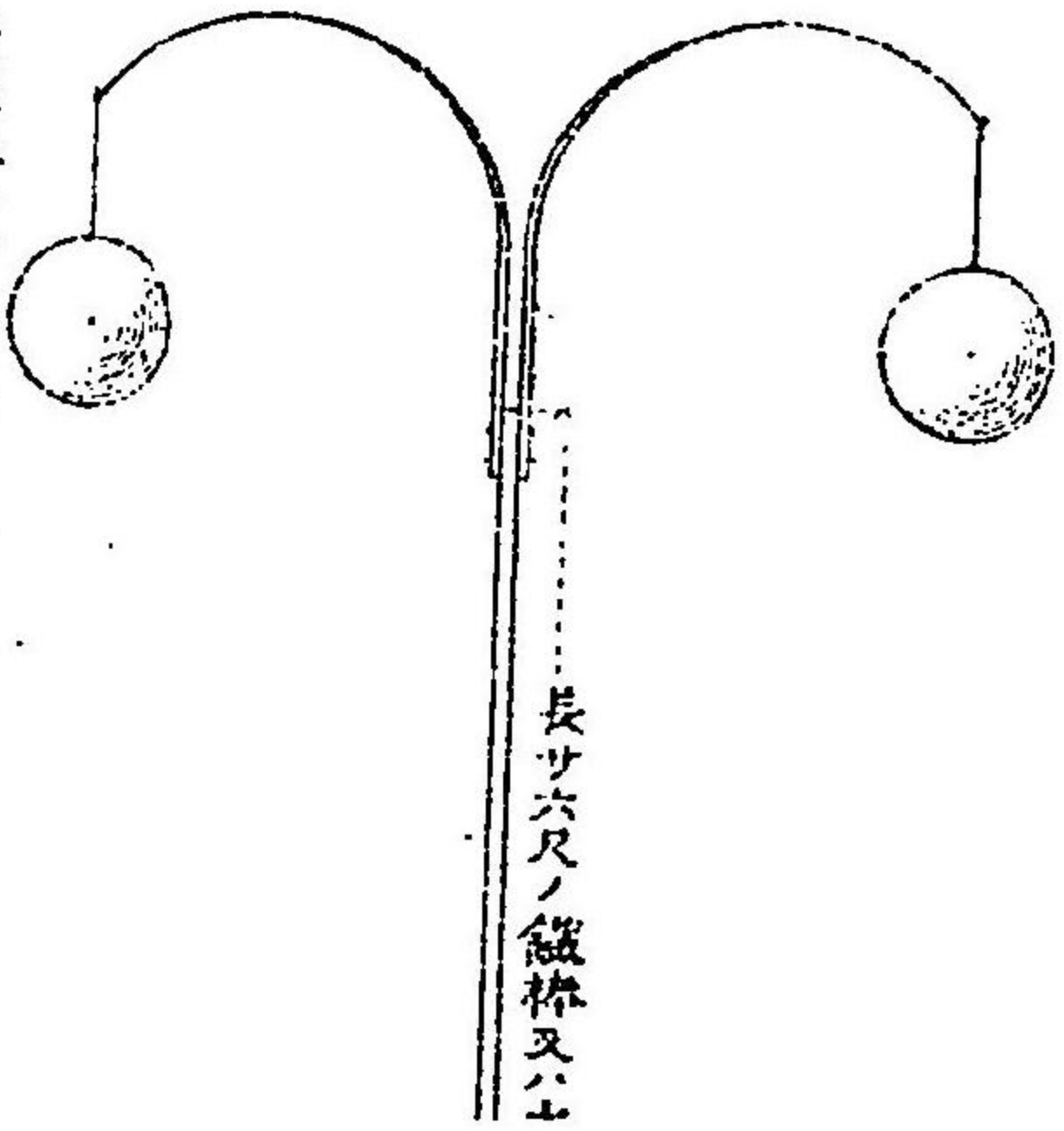
劍術用假標ノ例

軍刀術用假標



一 釣鐵(鋼製)ニシテ全長四尺二寸
 二 垂球ハ軟毛布質或ハ藁ノ類ヲ草若クハワラ
 重量約三百グラムトス

軍刀銃劍術兼用假標



一 鐵棒木製ハ地中約一尺打入スルモノトス
 二 釣鐵及垂球ノ構造ハ軍刀術用ニ同シ

253
459

明治四十年五月二十日印刷
明治四十年五月廿五日發行

(劍術教範與付)

翻刻者 兼 發行者 小島棟吉

印刷者 齋藤 東京市赤坂區田町五丁目十一番地

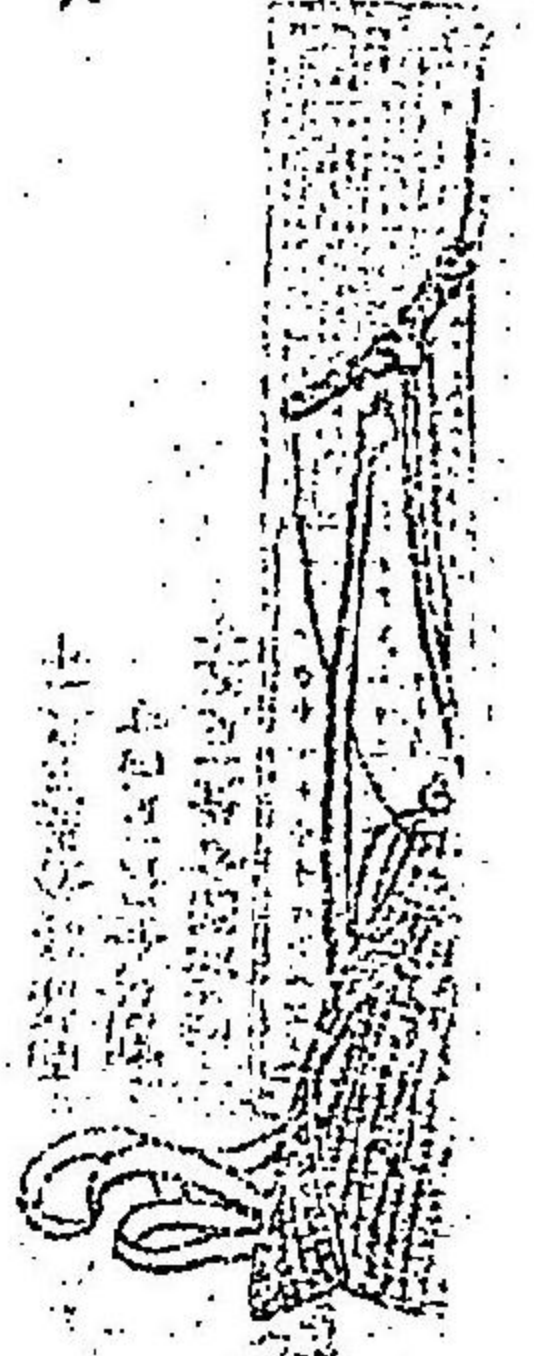
印刷所 齋藤活版所 東京市赤坂區田町五丁目十一番地

發行所 武揚堂 東京市日本橋區通三丁目七番地



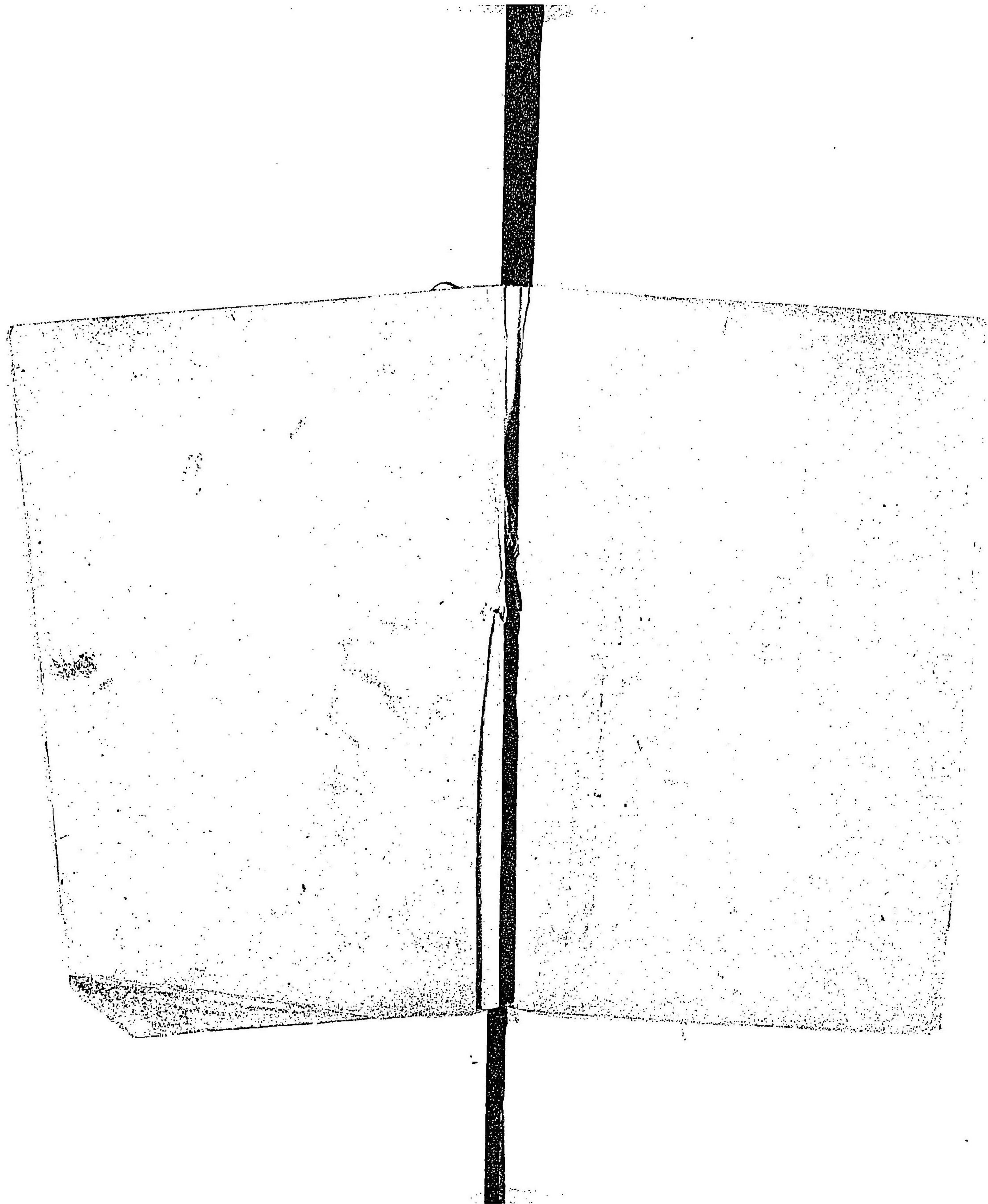
劍術教範與付

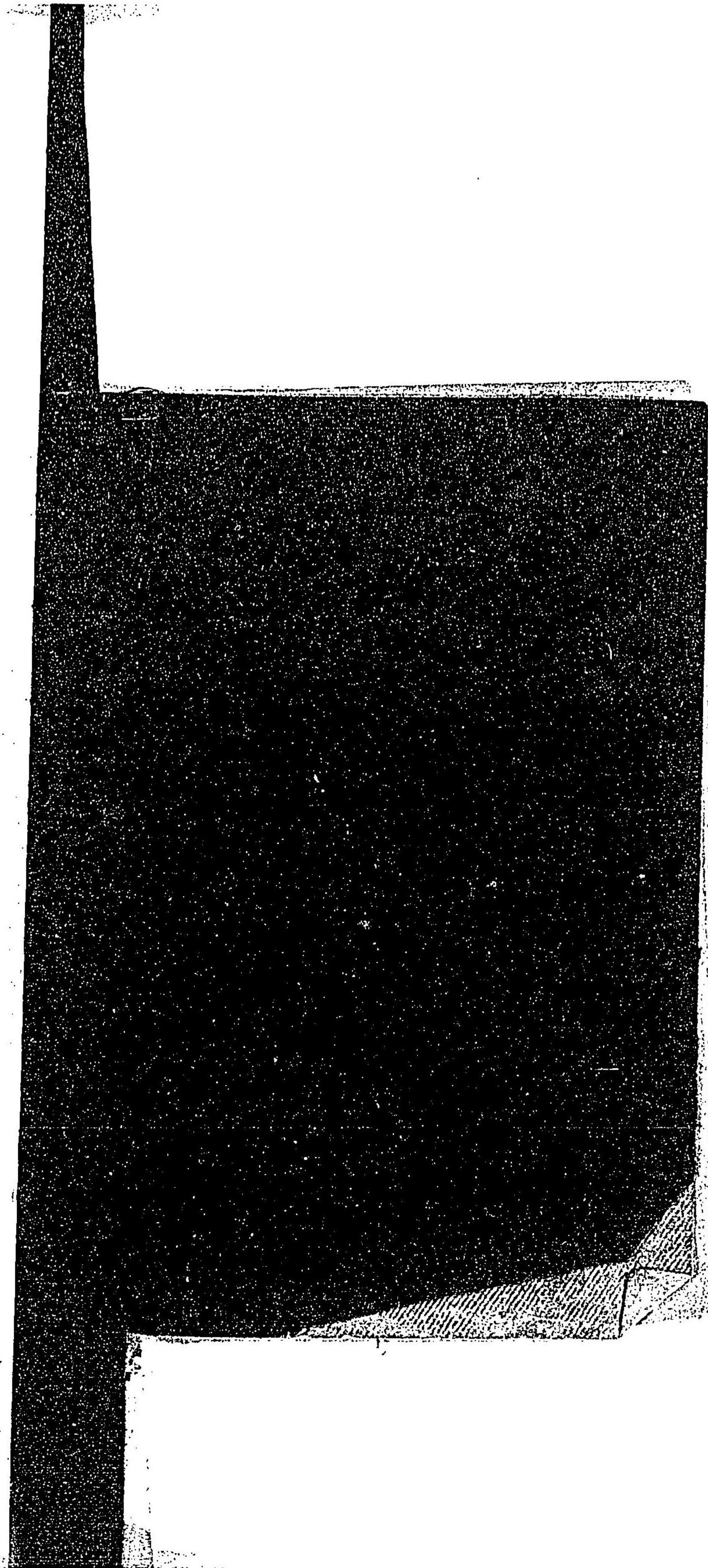
東京市日本橋區通三丁目七番地

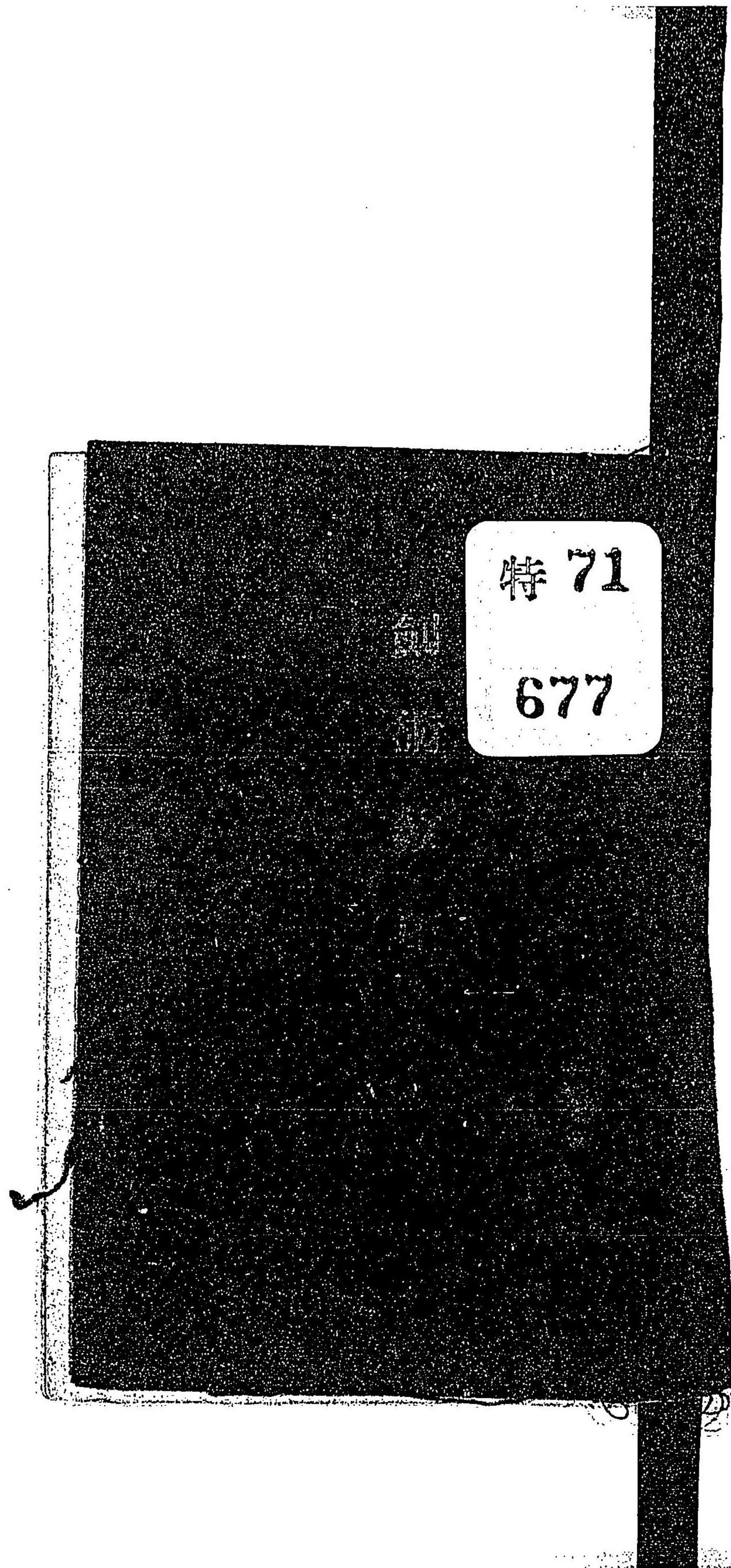


東京市日本橋區通三丁目七番地

武揚堂







特 71

677

301260-001-5

特 71-677

劍術教範

M40.5

CEM-0001

